

# 柏市光ヶ丘遺跡

— 光ヶ丘団地埋蔵文化財調査報告書Ⅱ —

平成13年9月

都市基盤整備公団  
財団法人 千葉県文化財センター

かしわ ひかり が おか  
柏市光ヶ丘遺跡

—— 光ヶ丘団地埋蔵文化財調査報告書Ⅱ ——



## 序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第418集として、都市基盤整備公団の柏市光ヶ丘団地建替に伴って実施した、柏市光ヶ丘遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、尖頭器やナイフ形石器などの旧石器や平安時代の住居跡などがみつき、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られています。この報告書が、学術資料として、また文化財の保護、普及の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成13年9月28日

財団法人千葉県文化財センター  
理事長 清水新次

## 凡 例

- 1 本書は、都市基盤整備公団による柏市光ヶ丘団地建替事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書（第2次）である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県柏市光ヶ丘1768-5ほかに所在する光ヶ丘遺跡（遺跡コード217-016）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、都市基盤整備公団の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、副所長 川島利道が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、都市基盤整備公団千葉地域支社、都市基盤整備公団光ヶ丘監督員事務所、柏市教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
  - 第1図 参謀本部陸軍測量図 1/20,000 地形図 我孫子宿、小金町
  - 第7図 国土地理院発行 1/25,000 地形図 流山（N1-54-25-1-2）  
松戸（N1-54-25-2-1）
- 8 図版1に使用した周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和44年撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 10 挿図に使用したスクリーントーン及び記号の用例は、その都度示した。
- 11 本書で使用した遺構番号の一部については、調査時に付した番号を下記のように変更した。

調 査 時	報 告 書	調 査 時	報 告 書
(F区) 溝001	004	(A区) 溝003	008
(E区) 溝001		(A区) 溝004	
(D区) 溝001	005	(A区) 土坑001	009
(C区) 溝001	006	(C区) 溝002	010
(A区) 溝001	007	(C区) 溝003	011
(A区) 溝002		(C区) 溝004	012

# 本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1 調査の経緯と経過	1
2 調査の方法	4
第2節 遺跡の位置と環境	7
1 遺跡周辺の地理的環境	7
2 周辺遺跡	10
第2章 検出した遺構と遺物	12
第1節 旧石器時代	12
1 第1文化層	12
2 第2文化層	14
3 第3文化層	22
4 第4文化層	27
5 第5文化層	28
第2節 縄文時代	35
1 遺構・遺物	35
第3節 平安時代	35
1 遺構・遺物	35
第4節 中近世	37
1 遺構・遺物	37
第3章 まとめ	51
第1節 旧石器時代	51
第2節 中近世	51
報告書抄録	巻末

## 挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図	2	第20図	第5文化層出土石器(1)	32
第2図	光ヶ丘遺跡現況図	3	第21図	第5文化層出土石器(2)	33
第3図	調査区位置図	4	第22図	第5文化層出土石器(3)	34
第4図	遺構分布図	5	第23図	縄文時代遺物(1)	36
第5図	光ヶ丘遺跡地形図	6	第24図	縄文時代遺物(2)	37
第6図	土層柱状図	7	第25図	005	39
第7図	周辺の遺跡分布	8	第26図	001・002・003	40
第8図	第1文化層出土石器	12	第27図	004(1)	41
第9図	第1ブロック分布図	16	第28図	004(2)	42
第10図	第2文化層出土石器(1)	17	第29図	004(3)	43
第11図	第2文化層出土石器(2)	18	第30図	004(4)	44
第12図	第2文化層出土石器(3)	19	第31図	006・010・011・012	45
第13図	第2ブロック分布図	20	第32図	007(1)	46
第14図	第2文化層出土石器(4)	21	第33図	007(2)・008・009・014	47
第15図	第4ブロック分布図	23	第34図	007(3)・013	48
第16図	第1礫群分布図	24	第35図	平安時代・中近世遺物(1)	49
第17図	第3文化層出土石器	25	第36図	中近世遺物(2)	50
第18図	第4文化層出土石器	28	第37図	旧石器時代石器群	53
第19図	第3ブロック分布図	30	第38図	光ヶ丘1号塚・2号塚測量図	54

## 表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧	9	第9表	第3文化層石器属性表	23
第2表	文化層と石器組成	13	第10表	第1礫群構成礫属性表	26
第3表	第1文化層石器組成表	13	第11表	第1礫群構成礫母岩別一覧	26
第4表	第1文化層石器属性表	13	第12表	第4文化層石器組成表	27
第5表	第2文化層石器組成表	14	第13表	第4文化層石器属性表	27
第6表	第2文化層石器属性表	15	第14表	第5文化層石器組成表	29
第7表	第2文化層礫属性表	15	第15表	第5文化層石器属性表	31
第8表	第3文化層石器組成表	22	第16表	第5文化層礫属性表	34

## 図版目次

- 図版1 光ヶ丘遺跡と周辺の地形  
図版2 F区調査前  
J区調査前  
F区建物解体状況  
図版3 005全景  
006全景  
001全景  
図版4 004北端部  
004北側(1)  
004北側(2)  
図版5 004南側  
004南端部(1)  
004南端部(2)  
図版6 007南側  
008西側  
009全景  
図版7 J区土層断面  
003全景  
第1ブロック遺物出土状況  
図版8 第1ブロックと土層断面  
H区土層断面  
第2ブロック遺物出土状況  
図版9 第3ブロック遺物出土状況  
D区土層断面  
第4ブロック遺物出土状況  
図版10 第1文化層出土石器  
第2文化層出土石器(1)  
図版11 第2文化層出土石器(2)  
図版12 第2文化層出土石器(3)  
第3文化層出土石器(1)  
図版13 第3文化層出土石器(2)  
第4文化層出土石器  
図版14 第5文化層出土石器(1)  
図版15 第5文化層出土石器(2)  
図版16 第5文化層出土石器(3)  
図版17 第1趾群構成礫  
図版18 縄文時代遺物(1)  
図版19 縄文時代遺物(2)  
図版20 平安時代・中近世遺物(1)  
図版21 中近世遺物(2)

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 調査の経緯と経過

都市基盤整備公団は、柏市光ヶ丘団地の建て替えを計画し、遺跡の取扱いについて千葉県教育委員会と協議した。その結果、発掘による記録保存の措置を講ずることで協議が整い、まず西側部分について平成8年度に千葉県文化財センターが発掘調査を実施した（第1次調査）。その後、東側も建て替えることになり、平成11年度に千葉県文化財センターが発掘調査を実施した（第2次調査）。

なお、1次調査については、既に平成10年度に報告書が刊行されており<sup>1)</sup>、今回は第2次調査の報告書である。

整理作業は、発掘が終了した翌年の平成12年度に遺物の水洗・注記から分類・復元・実測・挿図・図版作成・原稿執筆まで実施し、平成13年度に報告書の印刷・刊行に至った。

なお、各年度の実施期間、担当者、作業内容は以下のとおりである。

#### 平成11年度（発掘調査）

期 間 平成11年8月2日～平成12年3月30日

西部調査事務所長 及川淳一

担 当 副所長 川島利道

研 究 員 織田良昭

作業内容 上層確認調査 8,317㎡/49,960㎡ 上層本調査 5,311㎡

下層確認調査 1,788㎡/49,960㎡ 下層本調査 1,398㎡

#### 平成12年度（整理作業）

期 間 平成12年4月3日～7月31日

平成12年10月2日～平成13年3月30日

西部調査事務所長 及川淳一

担 当 副 所 長 岡田誠造, 川島利道

上席研究員 織田良昭

研 究 員 中道俊一

作業内容 遺物の水洗・注記、図面・写真等記録類の整理、遺物の分類・選別、復元、実測、挿図・図面作成、原稿執筆



田新堂山

田新内本郷

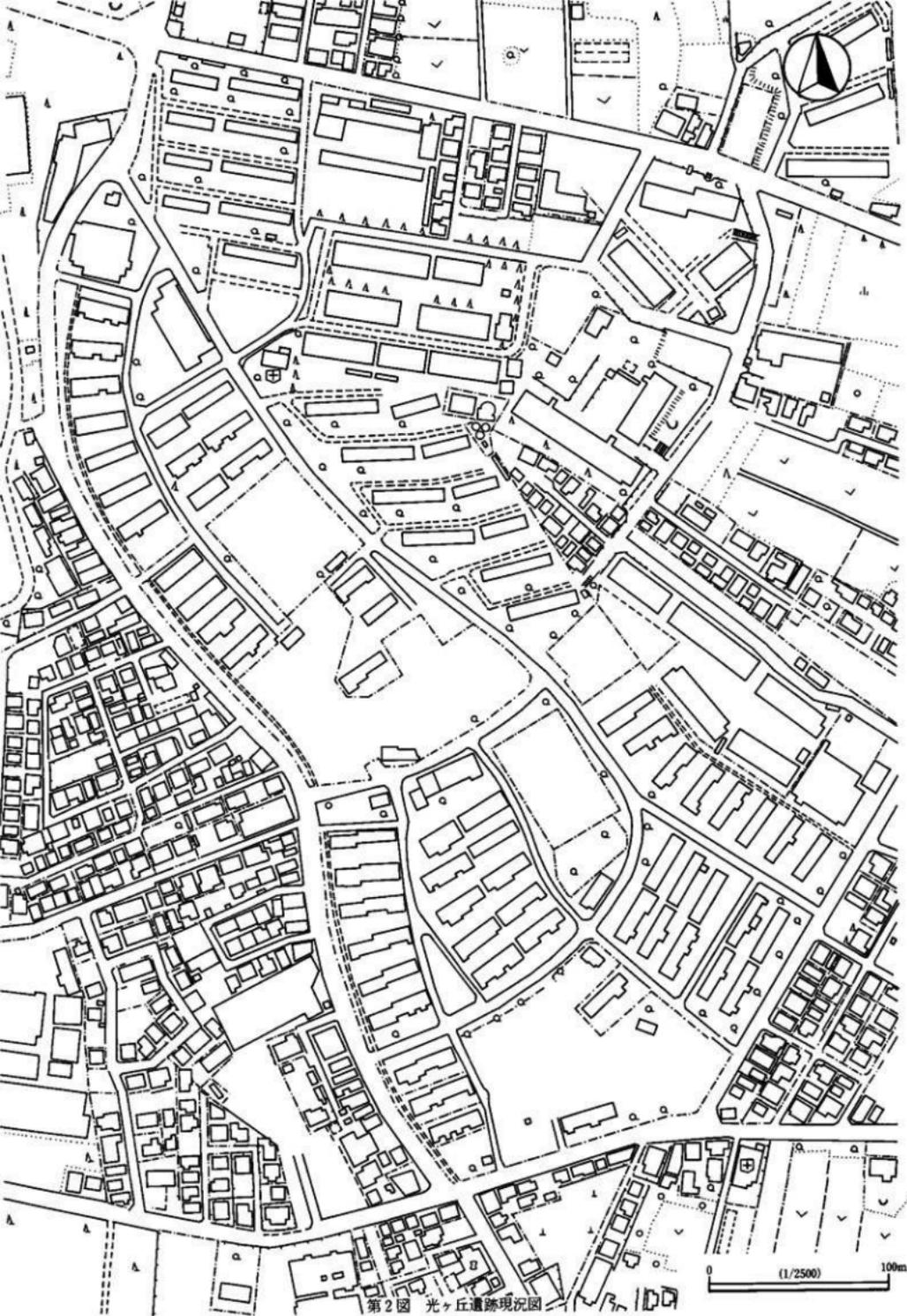
● 光ヶ丘遺跡

村 板井

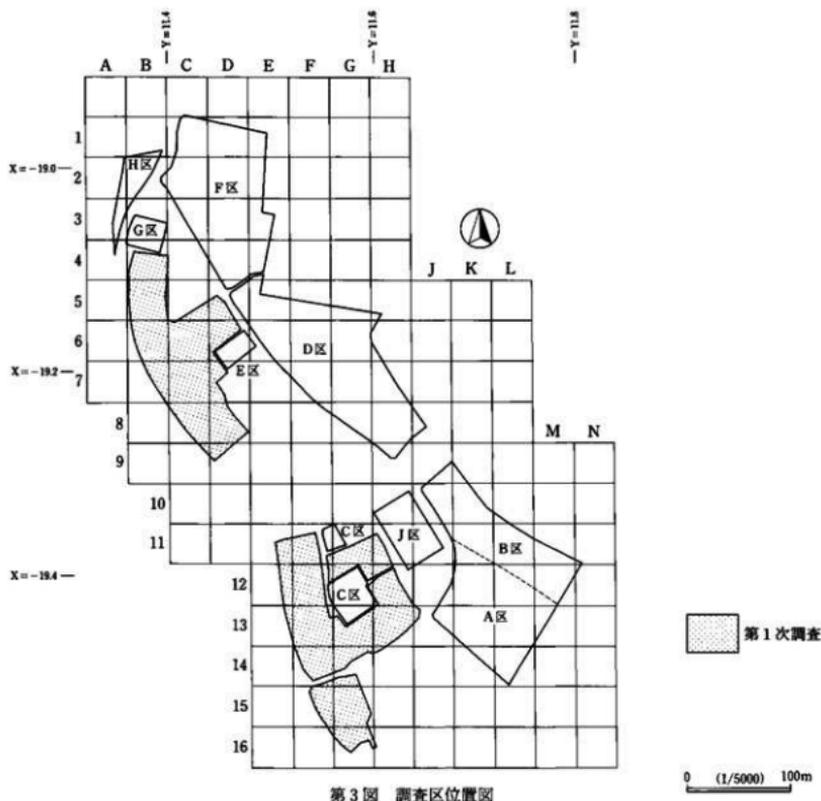
國

第1圖 遺跡位置圖

純



第2図 光ヶ丘遺跡現況図



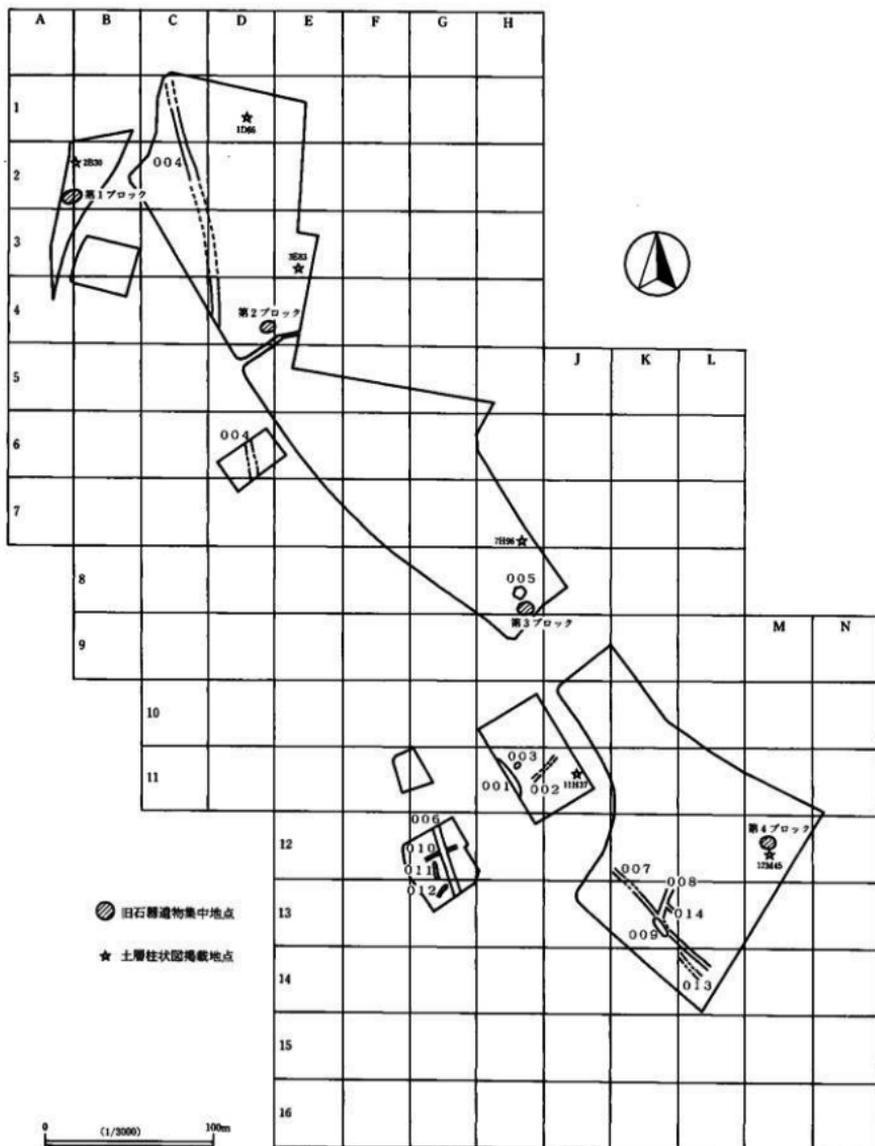
第3図 調査区位置図

## 2 調査の方法

調査は、建て替えの工区に基づきA区～J区（第3図）に調査区域を分けて、工事の工程に合わせて実施した。なお、検出遺構や出土遺物の位置を記録するため、調査区全体に公共座標に基づき40mメッシュを組み大グリッドとした。大グリッドは西からA・B・C・・・、北から1・2・3・・・と記号を付し、それを組み合わせるとして1A、2B、3E等とした（第3図・第4図）。また、この大グリッドをさらに4m×4mの100個の小グリッドに分割し、西から東へ00・01・・・09、北から南へ00・10・・・90と記号を付し、これら的大グリッドと小グリッドとを組み合わせるとして1A-00、2B-90、3E-99等とした。

上層調査は、2m幅のトレンチにより遺構・遺物の分布状況を確認した後、表土除去後本調査を実施した。下層調査は、2m×2mのグリッドにより遺物の出土状況を確認の後、遺物の集中地点について本調査を実施した。

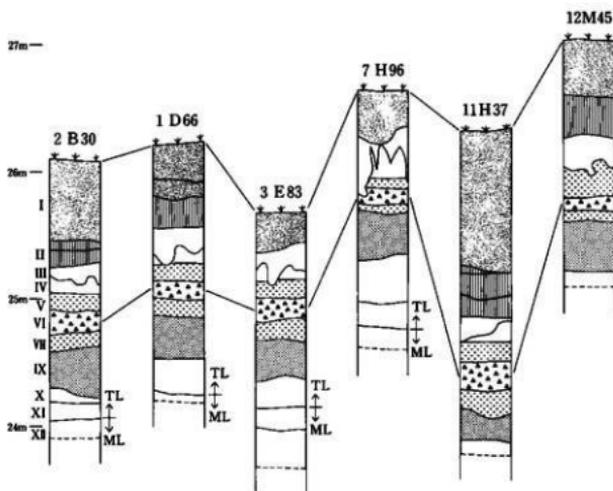
その結果、上層から縄文時代の土坑1基、平安時代の竪穴住居跡1軒、中近世の道路状遺構2条、土坑1基、溝状遺構9条、下層からは石器集中地点（ブロック）を4か所検出した（第4図）。遺物としては、旧石器時代の尖頭器石器群、ナイフ形石器群、縄文土器、縄文時代の石器、平安時代の土製支脚、中近世陶器、土器、板碑、宝篋印塔、銭貨等が出土した。



第4図 遺構分布図



第5図 光ヶ丘遺跡地形図



第6図 土層柱状図

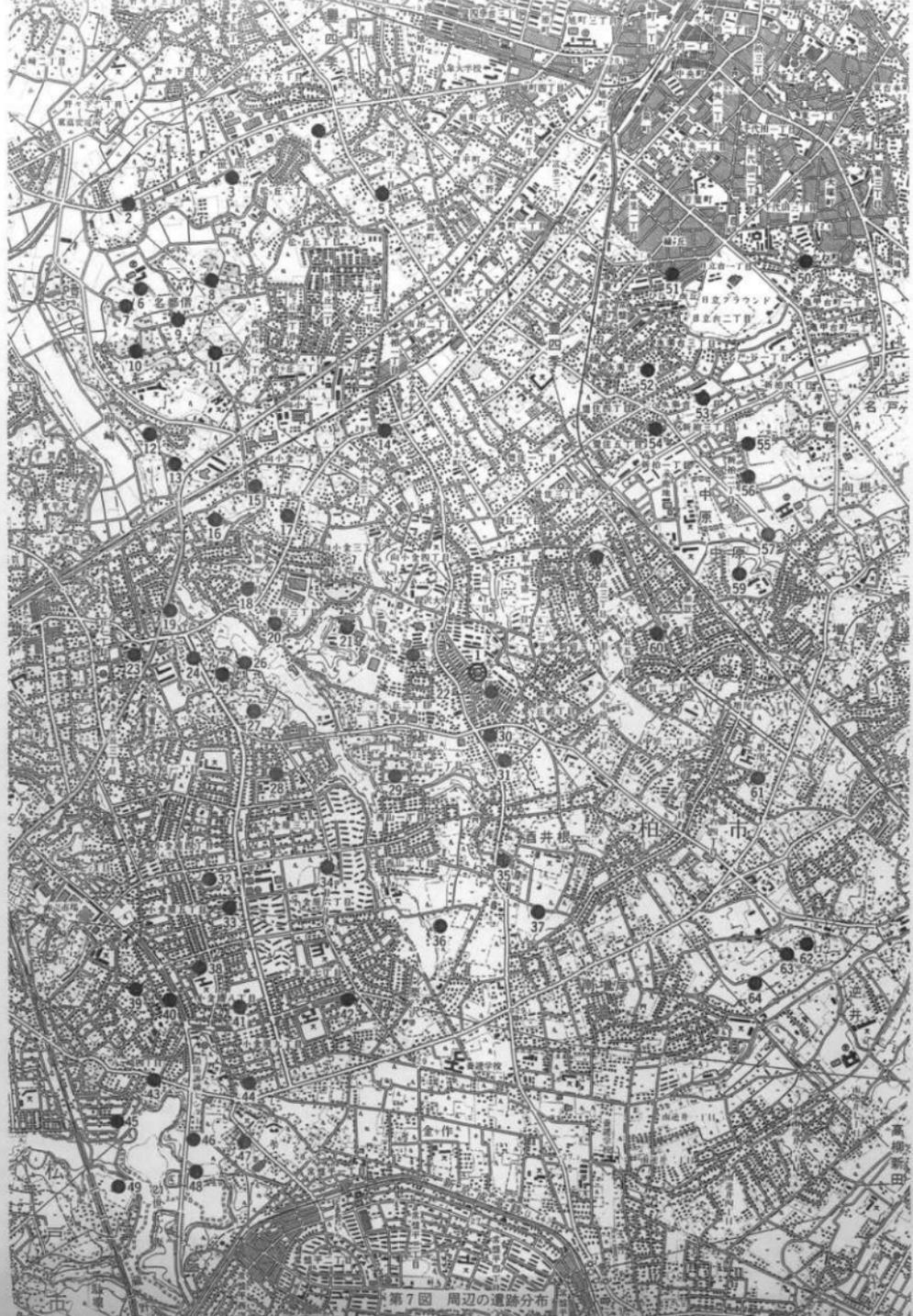
## 第2節 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡周辺の地理的環境

本遺跡周辺は、東京のベッドタウンになって久しい柏市の市街地の一部を形成しており、地形的には、東側は手賀沼に注ぐ大津川の支流が北東へ流れ、西側は江戸川へ注ぐ坂川の支流が北西へ流れている。いわば手賀沼・利根川水系と江戸川水系の分水界に位置し、小河川の源流部にあたり、そういう意味では内陸的あるいは丘陵的な地形といえることができる。なお、現在の行政区分においても、本遺跡付近が松戸市、柏市、流山市の3市の境界となっていることは、川や山が境界になることと同様、分水界あるいは尾根状の地形も境界になることを示していると考えられる。また、光ヶ丘団地造成前の測量図(第5図)<sup>1)</sup>によれば、標高は26~28m程で、比較的起伏は少なかったことがわかる。

遺跡の土層については第6図に示したが、その概要を以下に説明する。

- |    |       |  |
|----|-------|--|
| Ⅰ層 | 黒褐色土層 | 表土腐食土層であるが、調査区のほとんどに団地造成時の攪乱がみられた。                                   |
| Ⅱ層 | 暗褐色土層 | 縄文時代以降の土層であるが、かなり攪乱がみられた。  |
| Ⅲ層 | 黄褐色土層 | ソフトローム層と呼ばれる立川ローム層最上層で、一部に攪乱がみられた。                                   |
| Ⅳ層 | 黄褐色土層 | 本来は立川ローム層最上層のハードローム層であるが、ソフト化が進み大半がⅢ層に取り込まれたため、クラック帯の上部に残存していることが多い。 |



第7図 周辺の道路分布

高野新田

第1表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時期	遺構・遺物	備考
1	光ヶ丘	旧石器・縄文・平安・中近世	住居跡・遺跡跡・旧石器・縄文土器・陶器・石塔・銭貨	H6.9.11 (本報告書) 調査
2	笹原 (I)	縄文 (早・中)・弥生 (後)・古墳	住居跡・縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器	S56.58.63.H1調査
3	笹原 (II)	縄文 (早～中)・平安	地点貝塚・住居跡・縄文土器	H4.5.6.12調査
4	笹原 (III)	縄文 (前～後)・近世	地点貝塚・野馬土手・縄文土器	S59H15.7.A.10調査
5	弁天谷			
6	清滝院前	縄文 (前)・平安・近世	地点貝塚・灰窯・縄文土器・土師器	S63調査
7	名都僧堂	近世	塚	旧名都僧第1塚
8	名都僧宮ノ脇	縄文 (中)	住居跡・地点貝塚・縄文土器	
9	名都僧笹原込	縄文 (前・中)・平安	縄文土器・土師器	旧名都僧第1
10	名都僧城跡	中世	土塁	
11	名都僧普木	縄文 (中)・平安・中世	縄文土器・土師器・陶器	旧名都僧第Ⅲ
12	前ヶ崎貝塚	縄文 (前～後)	地点貝塚・縄文土器	
13	前ヶ崎石神	縄文 (中・後)・古墳 (後)	縄文土器・土師器	旧前ヶ崎第1
14	根木内台塚	近世	塚	一部削平
15	向小金2丁目第I	縄文 (中・後)	住居跡・縄文土器	H2調査
16	前ヶ崎反歩	縄文 (前～後)	縄文土器	S90.61調査。旧向小金新田第Ⅱ
17	向小金2丁目第Ⅱ	縄文 (中)・平安・近世	縄文土器・土師器・陶器	S60.61調査。旧向小金新田第Ⅰ
18	庚申前	縄文 (早・中)・中近世	住居跡・掘立柱建物跡・陥し穴・地下式坑・塚・縄文土器・陶器	H3調査。旧向小金新田第Ⅴ。消滅
19	根木内城跡	中近世	塙台・土橋・土塁・空堀	S60H2調査
20	根木内台貝塚	縄文・弥生	住居跡・縄文土器・弥生土器	S41調査
21	大勝院	縄文 (前)・弥生・古墳	縄文土器・弥生土器・土師器	
22	光ヶ丘塚	近世	塚	
23	行人台・行人台城跡	縄文 (早～中)・古墳 (中・後・中世)	住居跡・炉穴・空堀・土塁・墓坑・縄文土器・陶磁器・銭貨・人骨	H1調査 (行人台) S62.H1調査 (行人台城跡)
24	根木内	旧石器・縄文 (前～後)・中近世	住居跡・地点貝塚・掘立柱建物跡・空堀・土塁・地下式坑・旧石器・縄文土器・陶磁器・銭貨・人骨	S61.H3.5.6調査
25	辻 (根木内Ⅱ)	縄文 (後)	縄文土器	
26	根木内北ノ台	縄文 (前)・中近世	溝・井戸・土坑・縄文土器	S56調査
27	宮の後 (根木内)	縄文 (中)	縄文土器	S61調査
28	殿内	縄文 (前～後)	縄文土器	消滅
29	東山塚	近世	塚	
30	天王前	近世	塚	消滅
31	天王前貝塚	縄文		
32	谷っ口Ⅰ (栗ヶ沢第1)	縄文 (早・中・後)	縄文土器	
33	谷っ口Ⅱ (栗ヶ沢第2)	縄文 (早)	地点貝塚・縄文土器	消滅
34	水戸家御鷹場役所跡	近世		消滅
35	堀込	古墳	土師器	
36	西ヶ原	縄文 (中)	縄文土器	一部消滅
37	藩倉	縄文	縄文土器	
38	貝の花貝塚	縄文 (前～後)	住居跡・土坑・縄文土器・土偶・土版・耳飾・土器片断	S39～41調査。消滅
39	八ヶ崎貝の花	縄文 (中)	縄文土器	S63.H2調査
40	根切 (貝の花B)	縄文 (中)	縄文土器	
41	若菜 (栗ヶ沢)	縄文 (前～後)	住居跡・土坑・地点貝塚・縄文土器・土器片断・骨角製品	
42	笹塚 (栗ヶ沢新田)	縄文 (中)	縄文土器	消滅
43	八ヶ崎 (中堀込A)	縄文 (早～後)	環状貝塚・住居跡・土坑・縄文土器・土偶・土器片断	S63.H3.5.6調査
44	大作	縄文	縄文土器	
45	中堀込 (中堀込B)	縄文 (前～後)	縄文土器	消滅
46	豊戸Ⅱ	縄文 (早・前・後)	住居跡・炉穴・縄文土器・块状耳飾	S60調査
47	小塚前	縄文 (中)	地点貝塚・縄文土器	
48	豊戸	縄文 (早～中)	縄文土器	
49	大六天	縄文 (前・中)・古墳	縄文土器・土師器	H4調査
50	落合	縄文 (早・前)	縄文土器	消滅
51	ひばりが丘			消滅
52	北割	縄文 (前)	縄文土器	消滅
53	南割古墳	古墳		消滅
54	南割			消滅
55	柏口	縄文 (早・後)・古墳 (前・中)・近世	住居跡・炉穴・縄文土器・土師器・土玉	S53.56調査
56	中山越古墳群	近世	縄文土器	S53調査

番号	遺跡名	時期	遺構・遺物	備考
56	中山越古墳群	近世	縄文土器	S53調査
57	平根	縄文(早~後)		一部消滅
58	新宿前		縄文土器	消滅
59	土中	縄文(早~後)	円埴1	S53調査
60	五反割古墳	古墳	土師器	消滅
61	増尾木戸前	古墳	縄文土器・土師器	
62	中台	縄文・平安		S56調査
63	中台貝塚	縄文		
64	小山	縄文(前)	縄文土器	

- V層 暗黄褐色土層 立川ローム層第1黒色帯であるが、ソフト化が進みⅢ層に取り込まれているところが多い。
- VI層 黄褐色土層 始良丹沢(AT)火山灰を含み、火山ガラスと思われる白色粒子が多い。ソフト化の進行しているところもある。
- VII層 暗黄褐色土層 立川ローム層第2黒色帯の上部に相当し、黒みがあまり強くない。VI層からIX層への漸移層とも言える。
- VIII層 黄褐色土層 立川ローム層第2黒色帯の上部と下部の間にある間層に相当するが確認できなかった。
- IX層 暗黄褐色土層 立川ローム層第2黒色帯の下部に相当し、赤色スコリアを含み、黒み、粘性とも強い。a~cに分層されることもあるが、ここでは分けられなかった。
- X層 黄褐色土層 立川ローム層最下部層と思われ、スコリアを少量含む。明るい。
- XI層 黄褐色土層 武蔵野ローム層最上部層と思われ、やや暗く軟質である。

## 2 周辺遺跡(第7図, 第1表)

本遺跡付近が地形的に分水界になっているためか、周辺に比べて遺跡の密度は希薄である(第7図)<sup>9)</sup>。時代順に概観すれば、旧石器時代では本遺跡のほか、松戸市の根本内遺跡で5ブロックが検出され、165点の石器が出土している<sup>10)</sup>他、調査された遺跡はまだ少ない。これに比べ、次の縄文時代になると遺跡数が著しく増えて、貝塚を伴う遺跡も多く、松戸市の貝の花貝塚<sup>11)</sup>等著名な遺跡も存在する(第1表)。ところが、次の弥生時代以降になると遺跡数が激減する。旧石器時代と弥生時代以降の遺跡数の少なさは、どのようなことを意味しているのだろうか。

旧石器時代の遺跡については、地表面からは確認できないため、関東ローム層の中を2m近く掘り進めなくてはならないが、それには時間と費用が掛かるため、これまでは旧石器時代の本格的な調査が少なかったことが理由と考えられる。今後調査が進展すれば、同じ石器時代の縄文時代と同様たくさんの石器集積所(ブロック)や石器群が見つかるものと思われる。

弥生時代以降の遺跡については、地形的に分水界に位置し、広い台地と貧弱な水量の小河川の存在から、集落が成り立ちにくい状況を推測させる。しかし、本遺跡でも道路状遺構が検出されているが、奈良時代以降の陸上の交通路としての道路状遺構は、かえって尾根状の場所につくられた可能性が考えられ、今後はこうした遺構の検出例が増えるものと思われる。

- 注1 大内千年1998『柏市光ヶ丘遺跡－柏市光ヶ丘団地埋蔵文化財調査報告書－』財団法人千葉県文化財センター調査報告第326集
- 2 中原幹彦1992『光ヶ丘塚群1号塚・2号塚測量調査報告書』柏市教育委員会
- 3 財団法人千葉県文化財センター1997『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)－東葛飾・印旛地区(改訂版)－』財団法人千葉県文化財センター調査報告第316集
- 4 峰村 篤1997『根木内遺跡－第4地点発掘調査報告書－』松戸市文化財調査報告第27集
- 5 八幡一郎他1973『貝の花貝塚』松戸市教育委員会

## 第2章 検出した遺構と遺物

### 第1節 旧石器時代

旧石器時代の調査では、立川ローム層において5枚の文化層が確認された。最下部の第1文化層の検出層位はⅦ層である。下部の第2文化層の検出層位はⅤ～Ⅵ層で、遺物集中地点を2か所含む（第1ブロック、第2ブロック）。中位の第3文化層の検出層位はⅢ～Ⅴ層で、遺物集中地点を1か所含む（第1ブロック、第1礫群）。上部の第4文化層の検出層位はⅢ層中部である。最上部の第5文化層の検出層位はⅢ層上部で、遺物集中地点を1か所含む（第3ブロック）。

#### 1 第1文化層（遺物：第8図，図版10，第2～4表）

##### 分 布

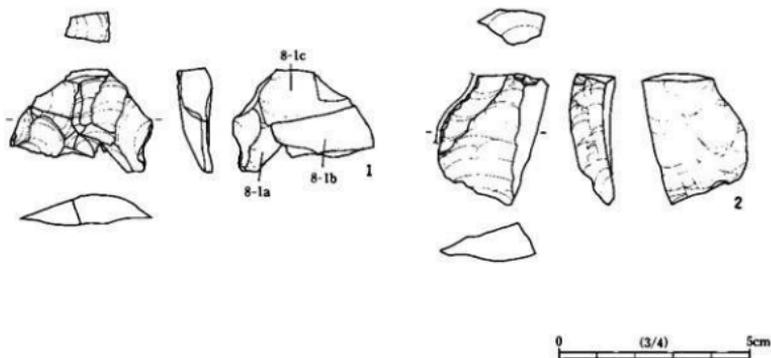
中央やや南側に位置するJ区においてⅦ層から4点の石器が検出された。礫の伴出はなく、これを第1文化層とする。

##### 器 種

石器の組成は、剥片が3点、破片が1点である。

##### 剥 片

第8図の1はチャートを用いた剥片2点と破片1点の接合している状況である。2は泥岩を用いた剥片で、側縁には微細な剝離痕がみられる。1・2とも打面は平坦で、剥片の形状は幅広く厚みがある。打角は80°と100°である。



第8図 第1文化層出土石器

第2表 文化層と石器組成

器 種	第1文化層	第2文化層		第3文化層		第4文化層	第5文化層	総 数
		第1 ブロック	第2 ブロック	第4 ブロック	ブ ロ ッ ク 外		第3 ブ ロ ッ ク	
尖 頭 器							3	3
ナイフ形石器						1		1
スクレイパー				2				2
磨石				2				2
二次加工ある剥片							7	7
削片							2	2
剥片	3	20	11	5		1	44	84
砕片	1	4	8	2			15	30
石 核		2	1	1	1		1	6
石 器 総 数	4	26	20	12	1	2	72	137
		46		13				
礫		3		32	1		1	37
		3		33				
		29	20	44	2		73	
総 数	4	49		46		2	73	174

第3表 第1文化層石器組成表

母 岩	剥 片	砕 片	総 数	組成比 (%)
チャート①	2	1	3	75
泥 岩 ①	1		1	25
総 数	3	1	4	100
組成比 (%)	75.0	25.0	100.0	

第4表 第1文化層石器属性表

No	ブロック	登録番号	器 種	石 材	押型番号	長×幅×厚 (mm)	重量 (g)	打角 (°)
1	ブロック外	11J-70-1	剥片	泥岩①	8-2	3.4×2.5×1.0	10.3	100
2	ブロック外	11J-80-1	剥片	チャート①	8-1a	(2.6)×(3.3)×(0.9)	5.8	80
3	ブロック外	11J-80-2-1	剥片	チャート①	8-1b	(1.2)×(2.8)×(0.7)	1.8	
4	ブロック外	11J-80-2-2	砕片	チャート①	8-1c	0.9×0.7×0.4	0.2	

2 第2文化層（遺構：第9・13図，図版7・8 遺物：第10～12・14図，図版10～12，第2・5～7表）

分布

北側に位置するH区とF区で検出された2か所の石器集中地点を第2文化層とする。H区から検出された石器集中地点を第1ブロックとする。分布は東西は7.0m×南北は8.0mに及び、石器集中地点としては規模がやや大きいほうである。検出層位はV層付近を中心とし、レベル的には40cm程の幅をもって検出された。若干の礫が伴出している。また、F区から検出された石器集中地点を第2ブロックとする。分布は東西は5.0m×南北は4.0mである。検出層位はV～VI層で、レベル的には60cm程の幅をもって検出された。礫の伴出はない。

器種

石器の組成は、第1ブロックは剥片が20点、砕片が4点、石核が2点、石器合計は26点である。その他礫が3点検出されている。また、第2ブロックは剥片が11点、砕片が8点、石核が1点、石器合計は20点である。

剥片

第10図の3～6は安山岩，第12図の1～6はチャートを用いているという石材に違いがあるが、いずれ

第5表 第2文化層石器組成表

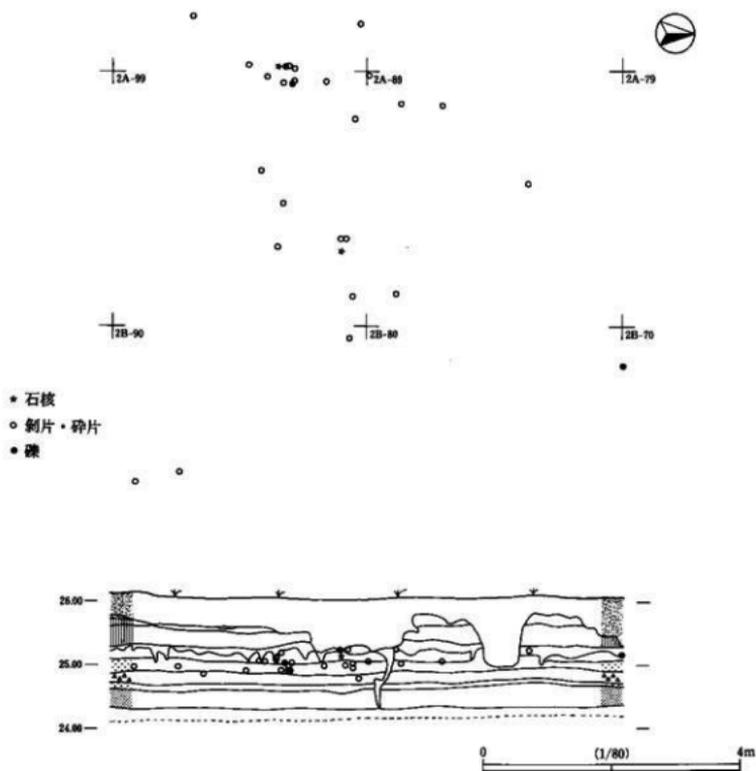
ブロック	母岩	剥片	砕片	石核	総数	組成比(%)
第1ブロック	チャート①	9	3	1	13	50
	チャート②	1			1	4
	チャート③	1			1	4
	チャート④			1	1	4
	チャート⑤	2			2	8
	チャート⑥		1		1	4
	安山岩①	7			7	27
	小計	20	4	2	26	100
	組成比(%)	77	15	8	100	
第2ブロック	黒曜石①	10	9	1	20	100
	小計	10	9	1	20	100
	組成比(%)	50	45	5	100	
総数		30	13	3	46	100
組成比(%)		65	28	7	100	

第6表 第2文化層石器属性表

No	ブロック	登録番号	器種	石材	検出番号	長×幅×厚 (mm)	重量 (g)	打角 (°)
1	第1ブロック	1ブレ-1	打面再生剥片	チャート⑤		4.2×3.4×1.7	24.2	110
2	第1ブロック	1ブレ-2	剥片	チャート⑤		(1.8)×0.9×0.4	0.7	
3	第1ブロック	1ブレ-3	剥片	チャート①		3.0×2.4×1.7	10.3	110
4	第1ブロック	1ブレ-5	剥片	チャート②		3.6×2.2×1.0	7.0	110
5	第1ブロック	1ブレ-6	剥片	安山岩①	10-3a	1.6×3.7×0.7	3.1	110
6	第1ブロック	1ブレ-7	石核	チャート①		3.0×2.4×2.4	12.6	
7	第1ブロック	1ブレ-8	剥片	チャート③		2.0×1.4×0.6	1.6	
8	第1ブロック	1ブレ-9	剥片	チャート①	12-2	2.6×3.4×1.1	8.6	
9	第1ブロック	1ブレ-10	剥片	安山岩①	10-1	2.7×3.5×0.6	4.0	110
10	第1ブロック	1ブレ-11	剥片	チャート①	12-1	2.5×2.6×0.9	3.9	
11	第1ブロック	1ブレ-12	剥片	チャート①	12-4	4.3×1.8×1.3	6.9	
12	第1ブロック	1ブレ-13	剥片	チャート①		0.9×1.2×0.3	0.2	
13	第1ブロック	1ブレ-14	剥片	チャート③		3.6×4.1×2.2	25.5	
14	第1ブロック	1ブレ-15	剥片	チャート①		1.6×0.9×0.2	0.4	
15	第1ブロック	1ブレ-16	剥片	チャート①		2.7×2.1×1.1	5.0	95
16	第1ブロック	1ブレ-18	剥片	チャート①	12-3	4.5×2.7×1.5	21.5	
17	第1ブロック	1ブレ-19	剥片	チャート①	12-5	1.8×2.0×0.6	1.5	
18	第1ブロック	1ブレ-20	剥片	チャート①		0.6×0.5×0.2	0.1	
19	第1ブロック	1ブレ-21	剥片	安山岩①	10-4	1.7×3.1×0.7	3.1	110
20	第1ブロック	1ブレ-22	剥片	安山岩①	10-5	1.1×1.7×0.4	0.6	
21	第1ブロック	1ブレ-23	剥片	チャート①	12-6	2.0×1.0×0.6	1.4	
22	第1ブロック	1ブレ-24	石核	チャート①	12-7	5.3×5.5×5.6	237.0	
23	第1ブロック	1ブレ-26	剥片	チャート①		3.2×4.6×1.7	20.2	95
24	第1ブロック	1ブレ-27	剥片	安山岩①	10-6	4.8×4.8×1.5	33.7	120
25	第1ブロック	1ブレ-29	剥片	安山岩①	10-3b	2.0×1.4×0.6	1.0	
26	第1ブロック	1ブレ-30	剥片	安山岩①		2.1×1.1×0.8	1.2	
1	第2ブロック	4D-68-1	剥片	黒曜石①		1.0×0.8×0.3	0.1	
2	第2ブロック	4D-68-2	剥片	黒曜石①		0.8×1.2×0.3	0.2	
3	第2ブロック	4D-68-3	剥片	黒曜石①	14-4	1.4×2.3×1.1	3.0	
4	第2ブロック	4D-68-4	剥片	黒曜石①		(2.8)×2.4×1.9	9.7	100
5	第2ブロック	4D-69-1	剥片	黒曜石①	14-1	2.3×(2.1)×0.6	2.3	
6	第2ブロック	4D-69-2	剥片	黒曜石①		(1.7)×(2.3)×0.6	1.8	
7	第2ブロック	4D-69-3	剥片	黒曜石①		3.1×1.7×2.0	6.5	65
8	第2ブロック	4D-69-4	剥片	黒曜石①		2.4×(2.3)×0.6	2.3	
9	第2ブロック	4D-69-5	剥片	黒曜石①		1.4×1.8×0.6	0.9	
10	第2ブロック	4D-69-6	剥片	黒曜石①		1.4×1.3×0.6	0.6	
11	第2ブロック	4D-69-7	石核	黒曜石①	14-5	2.5×1.9×1.4	6.2	
12	第2ブロック	4D-69-8	剥片	黒曜石①		(0.4)×1.2×0.3	0.1	
13	第2ブロック	4D-69-9	剥片	黒曜石①	14-2	(1.5)×3.2×0.8	2.5	
14	第2ブロック	4D-69-10	剥片	黒曜石①		1.1×1.3×0.4	5.8	100
15	第2ブロック	4D-69-11	剥片	黒曜石①		1.1×1.6×0.2	0.3	
16	第2ブロック	4D-69-12	剥片	黒曜石①		0.6×0.4×0.2	0.1	
17	第2ブロック	4D-69-13	剥片	黒曜石①		(1.8)×1.9×0.7	1.8	
18	第2ブロック	4D-69-14	剥片	黒曜石①	14-3	1.9×2.5×0.7	2.9	100
19	第2ブロック	4D-69-15	剥片	黒曜石①		(0.6)×0.5×0.2	0.1	
20	第2ブロック	4D-69-16	剥片	黒曜石①		0.9×0.7×0.1	0.2	

第7表 第2文化層燧石属性表

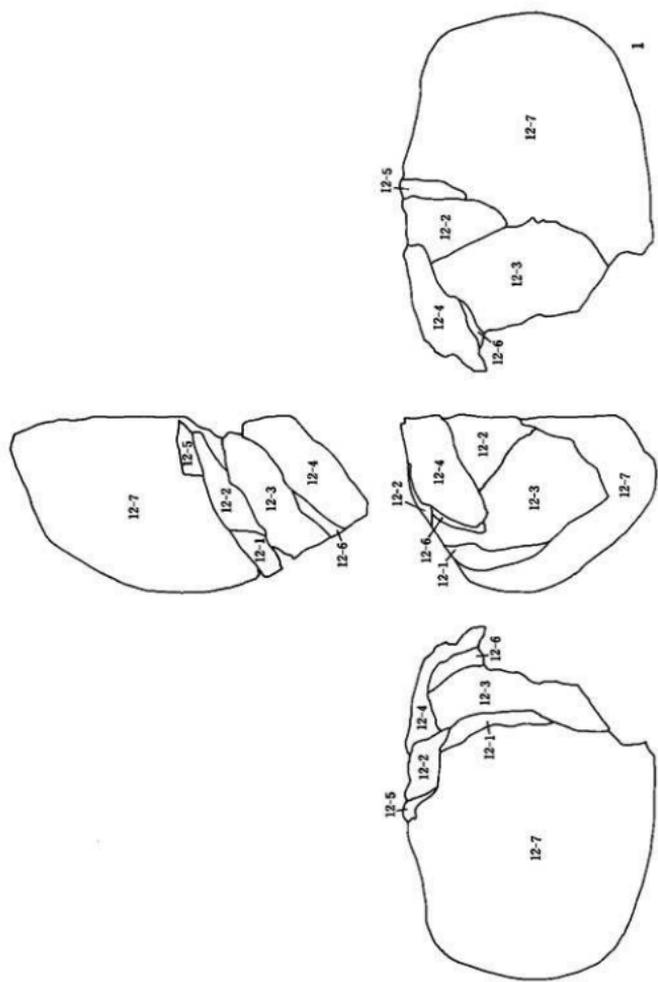
No	登録番号	石材	長×幅×厚 (mm)	重量 (g)	遺存状況	ヒビ	黒色付着物
1	1ブレ4	凝灰岩①	5.7×4.4×1.5	47.4	1/4		
2	1ブレ25	凝灰岩②	8.8×6.1×3.1	254.0	1/1		
3	1ブレ28	安山岩①	6.3×4.8×2.6	96.1	1/1		



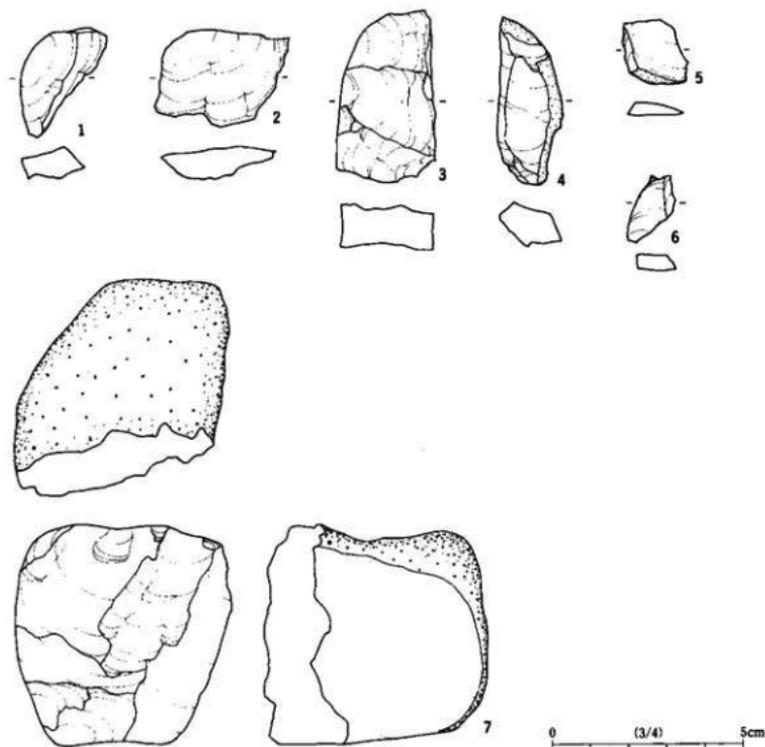
第9図 第1ブロック分布図



第10图 第2文化層出土石器(1)



第111圖 第2文化層出土石器(2)



第12図 第2文化層出土石器(3)

も礫面を打面とした剥片である。また、第10図の1と第14図の3はどちらも平坦な打面をもつ剥片で、幅広である。

#### 石核

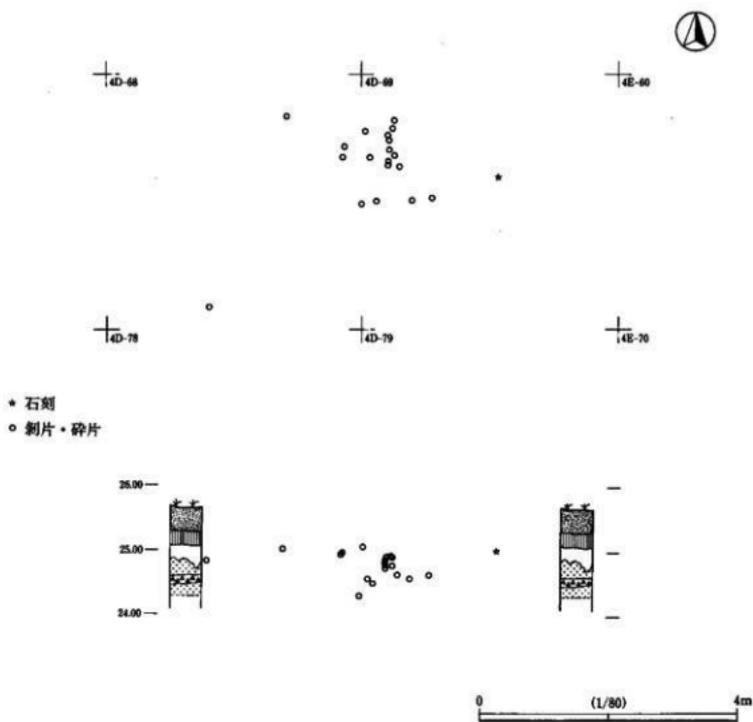
第12図の7はチャートを用いた石核である。打面には礫面が選ばれ、打面はある程度固定されていたものと思われる。また、第14図の5は黒曜石を用いた石核である。打面は平坦で、やはり打面はある程度固定されていたものと思われる。

#### 接合

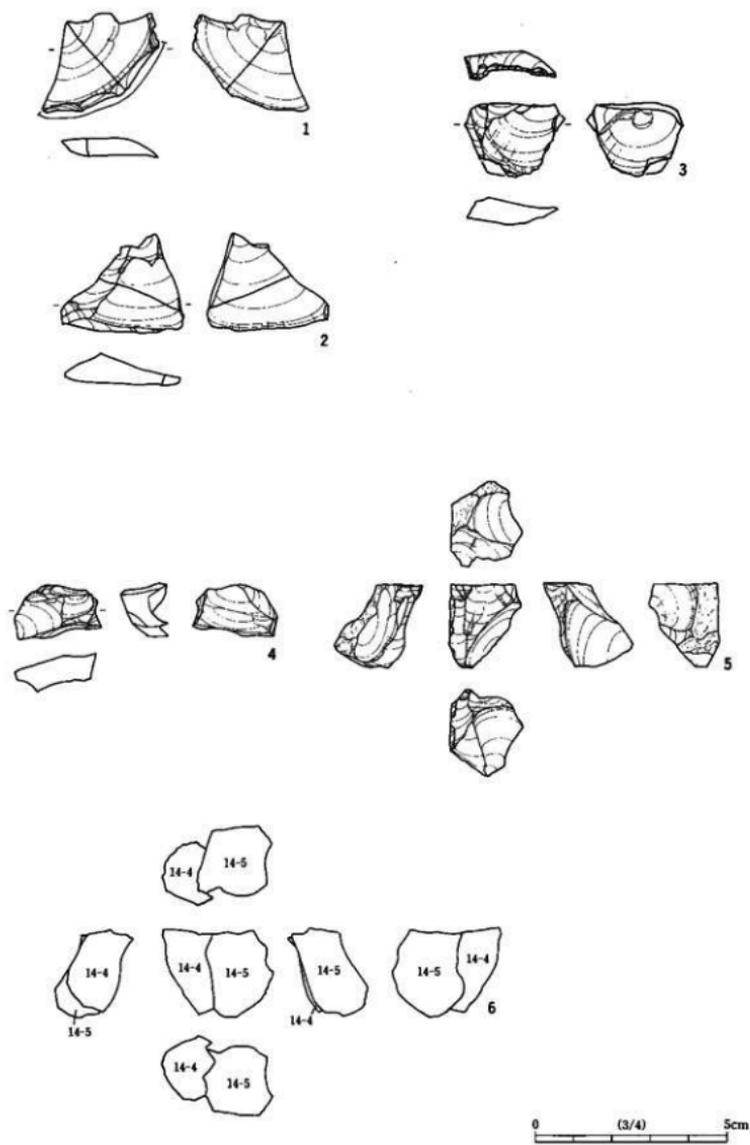
第11図の1は、チャートの接合資料で、石核1点と剥片6点が接合している。礫面を打面として剥離された剥片が大部分で、剥片の形状は一定してない。

#### 石材

第2文化層で用いられている石器の石材は、母岩別に分類すると全部で8種類であるが(第5表)、第1ブロックの大半はチャートで占められ、第2ブロックは全て黒曜石である。



第13図 第2ブロック分布図



第14图 第2文化層出土石器(4)

3 第3文化層（遺構：第15・16図，図版9 遺物：第17図，図版12・13・17，第2・8～11表）

分 布

南東部に位置するB区で検出された石器集中地点とその他若干の遺物をもって第3文化層とする。なお、B区で検出された石器集中地点を第4ブロックとする。検出層位はⅢ～Ⅴ層で、レベル的には60cm程の幅をもって検出された。また、礫群を1つ伴っており、これを第1礫群とする。

器 種

石器の組成は、スクレイパーが2点、磨石が2点、剥片が5点、砕片が2点、石核が2点、石器合計は13点である。

スクレイパー

第17図の1と3が珪質頁岩を用いたスクレイパーである。1・3ともにノッチ状の刃部をもち、1は他の側縁にも微細な剥離痕がみられる。

磨 石

図示していないが、シルト岩の磨石片が2点出土しており、接合する。表裏両面のほか側縁も磨滅していた。

剥 片

珪質頁岩の剥片は、調整打面から剥離しているようであるが、他の石材は明確ではない。

石 核

17図の6はチャートの石核で、打面を転移して剥片を剥離していると思われる。

石 材

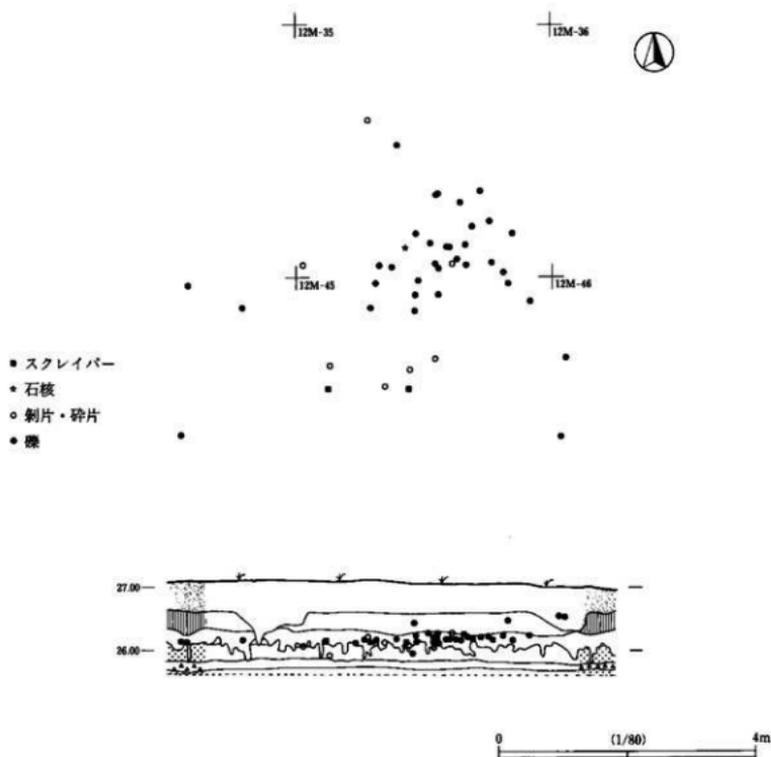
第3文化層で用いられている石器の石材を母岩別に分類すると全部で4種類あるが（第8表）、主体は珪質頁岩である。

礫 群

第3文化層に伴う第1礫群の分布は、東西は6.0m×南北は5.0mである。検出層位はⅢ～Ⅴ層で、礫群構成礫の総数は32点である。遺存状況は、1/4以下が90%以上で、重量別にみると、20g以下が60%以上

第8表 第3文化層石器組成表

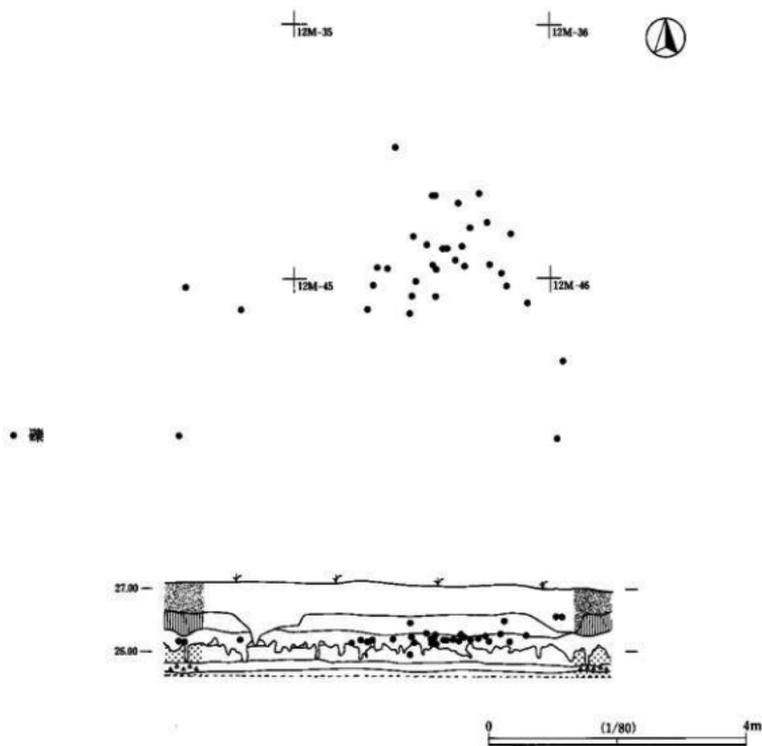
母 岩	スクレイパー	磨 石	剥 片	砕 片	石 核	総 数	組成比 (%)
珪質頁岩①	2		4	1		7	54
チャート①					1	1	8
安山岩①			1	1	1	3	23
シルト岩①		2				2	15
総 数	2	2	5	2	2	13	100
組成比 (%)	15	15	38	15	15	100	



第15図 第4ブロック分布図

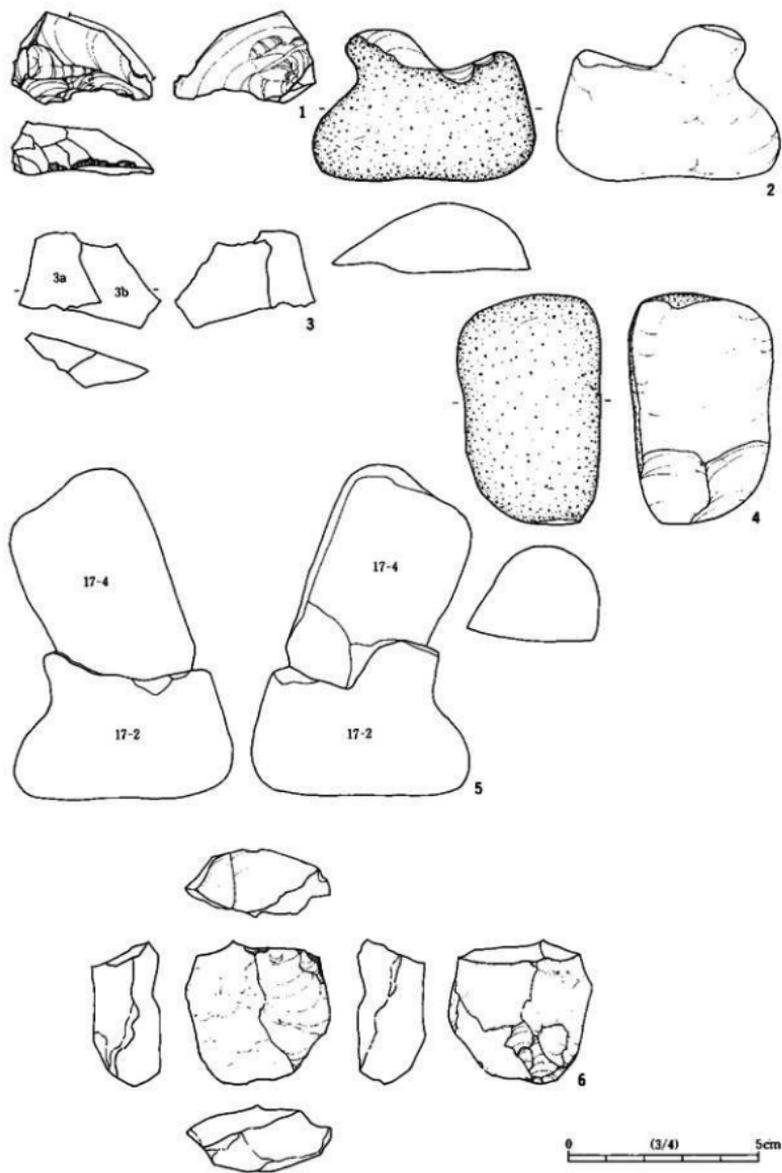
第9表 第3文化層石器属性表

No	ブロック	登録番号	器種	石材	押印番号	長×幅×厚 (mm)	重量 (g)	打角 (°)	
1	第4ブロック	12M-35-7	剥片	珪質頁岩①	17-4	(0.8)×0.4×0.2	0.1	130	
2	第4ブロック	12M-35-15	石核	安山岩①		6.0×3.8×2.6	80.7		
3	第4ブロック	12M-35-19	剥片	珪質頁岩①		1.6×2.2×2.9	0.7		
4	第4ブロック	12M-35-20	剥片	珪質頁岩①		1.1×2.1×0.3	0.6		
5	第4ブロック	12M-45-6	磨石	シルト岩①	3.1×2.2×2.1	14.8			
6	第4ブロック	12M-45-8	磨石	シルト岩①	3.5×2.4×2.0	15.4			
7	第4ブロック	12M-45-9	剥片	安山岩①	17-2	5.9×4.0×1.9	37.9		
8	第4ブロック	12M-45-10	剥片	珪質頁岩①		0.8×1.3×0.2	0.2		
9	第4ブロック	12M-45-11	スクレイパー	珪質頁岩①	17-3a	2.2×1.9×1.0	2.7		
10	第4ブロック	12M-45-12	剥片	珪質頁岩①	17-3b	2.2×3.0×1.0	5.1		
11	第4ブロック	12M-45-13	スクレイパー	珪質頁岩①	17-1	2.5×3.8×1.4	8.8		
12	第4ブロック	12M-45-14	剥片	安山岩①		0.5×0.6×0.2	0.1		
13	ブロック外	12L-17-1	石核	チャート①	17-6	3.7×3.7×1.8	26.3		



第16図 第1礫群分布図

を占め、第1礫群構成礫に小さい破片が多いことがわかる。石材別では、砂岩とアブライトで大半を占める。なお、ヒビや黒色付着物のあるものが多く、ほとんどは焼けていると思われる。また、接合後完形に復元出来るものはない。



第17圖 第3文化層出土石器

第10表 第1礫群構成礫属性表

No	登録番号	石材	長×幅×厚(mm)	重量(g)	遺存状況	ヒビ	黒色付着物
1	12M-35-1	ホルンフェルス①	4.7×2.2×1.6	12.5	1/4		
2	12M-35-2	砂岩①	2.9×2.8×1.5	12.9	1/4		○
3	12M-35-3	砂岩①	4.9×2.5×2.1	21.9	1/4		○
4	12M-35-4	砂岩⑦	3.8×2.8×1.7	13.4	1/4		
5	12M-35-5	アブライト①	2.2×1.8×0.9	3.5	1/4	○	
6	12M-35-6	砂岩①	3.5×3.5×2.7	31.7	1/4		○
7	12M-35-8	砂岩①	3.6×2.8×2.8	36.1	1/4		○
8	12M-35-9	アブライト①	2.3×1.6×1.0	3.4	1/4	○	
9	12M-35-10	アブライト①	2.3×2.0×1.5	6.8	1/4	○	
10	12M-35-11-1	アブライト①	3.0×2.5×1.7	13.2	1/4	○	
11	12M-35-11-2	アブライト①	3.1×2.3×2.1	15.6	1/4	○	
12	12M-35-12	凝灰岩②	4.3×3.5×2.1	41.0	1/3	○	○
13	12M-35-13	アブライト①	2.0×1.3×1.2	3.5	1/4	○	
14	12M-35-14	砂岩⑤	3.9×3.7×2.2	27.3	1/4	○	○
15	12M-35-16	砂岩②	6.5×4.6×2.6	75.8	1/2	○	
16	12M-35-17	アブライト②	3.8×2.0×1.5	11.7	1/4	○	○
17	12M-35-18	砂岩⑦	2.3×1.9×1.7	5.9	1/4		
18	12M-35-21	砂岩⑥	3.7×3.0×2.0	23.7	1/4		○
19	12M-35-22	アブライト①	2.0×1.4×1.2	5.0	1/4	○	
20	12M-35-23	アブライト①	2.9×2.5×2.1	14.6	1/4	○	
21	12M-35-24	砂岩④	2.6×3.9×2.4	40.6	1/4	○	○
22	12M-44-1	砂岩⑤	3.7×2.9×2.3	32.7	1/4	○	○
23	12M-44-2	砂岩⑥	4.0×2.6×1.6	14.1	1/4	○	○
24	12M-44-3	砂岩③	4.8×4.4×2.5	51.2	1/4	○	○
25	12M-45-1	アブライト①	3.3×1.7×1.7	7.4	1/4	○	
26	12M-45-2	アブライト②	4.4×2.4×1.5	16.8	1/4	○	○
27	12M-45-3	チャート①	5.6×3.9×2.8	51.2	1/2	○	○
28	12M-45-4	アブライト②	2.8×2.2×1.5	8.3	1/4	○	○
29	12M-45-5	凝灰岩①	4.7×3.2×2.4	29.4	1/4	○	○
30	12M-45-7	砂岩⑥	4.1×2.1×1.1	9.2	1/4	○	○
31	12M-46-1	花崗岩①	2.1×1.2×1.0	2.6	1/4	○	○
32	12M-46-2	アブライト①	1.8×1.7×1.4	3.9	1/4	○	

第11表 第1礫群構成礫母岩別一覧

母岩	数	重量(g)	重量比(%)
砂岩①	4	102.6	15.9
砂岩②	1	75.8	11.7
砂岩③	1	51.2	7.9
砂岩④	1	40.6	6.3
砂岩⑤	2	60.0	9.3
砂岩⑥	1	23.7	3.7
砂岩⑦	2	19.3	3.0
砂岩⑧	1	14.1	2.2
砂岩⑨	1	9.2	1.4
アブライト①	10	76.9	11.9
アブライト②	3	36.8	5.7
凝灰岩①	1	29.4	4.5
凝灰岩②	1	41.0	6.3
チャート①	1	51.2	7.9
ホルンフェルス①	1	12.5	1.9
花崗岩①	1	2.6	0.4
合計	32	646.9	100

4 第4文化層（遺物：第18図，図版13，第12・13表）

分布

C区とE区でⅢ層中部より，1点ずつ石器が検出され，これを第4文化層とする。

器種

石器の組成は，ナイフ形石器と剥片が各1点である。

ナイフ形石器

第18の1は，1側縁を除き，周囲に調整加工を施したナイフ形石器である。珪質頁岩を用い，打面は除去されているが，先端部方向に用いている。主要剥離面基部への調整加工が目立つ。

剥片

第18の2は黒曜石を用いた剥片で，剥離面の交点付近を打点にして剥離されている。

石材

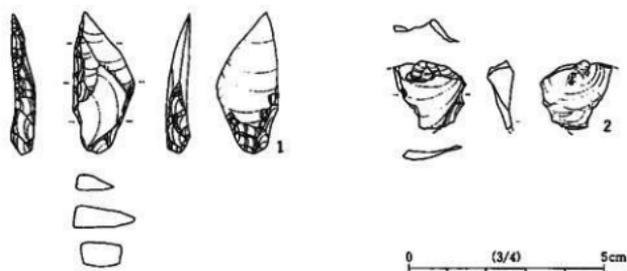
珪質頁岩と黒曜石各1点である。

第12表 第4文化層石器組成表

母岩	ナイフ形石器	剥片	総数	組成比(%)
珪質頁岩①	1		1	50
黒曜石②		1	1	50
総数	1	1	2	100
組成比(%)	50	50	100	

第13表 第4文化層石器属性表

No	ブロック	登録番号	器種	石材	標記番号	長×幅×厚(mm)	重量(g)	打角(°)
1	ブロック外	5トレ-1	ナイフ形石器	珪質頁岩①	18-1	3.6×1.6×0.6	3.2	
2	ブロック外	6D-95-2	剥片	黒曜石①	18-2	1.8×1.9×0.5	0.9	95



第18図 第4文化層出土石器

5 第5文化層（遺構：第19図，図版9 遺物：第20～22図，図版14～16，第14～16表）

分布

D区南端で検出された石器集中地点を第5文化層とし，さらに第3ブロックとする。分布は東西は8.0 m×南北は5.0 mである。検出層位はⅢ層上部で，緩斜面のためカレレベル的には100 cm程の幅をもって検出された。礫は1点伴出している。

器種

石器の組成は，尖頭器が3点，削片が2点，二次加工ある剥片が7点，剥片が44点，砕片が15点，石核が1点，合計は72点である。

尖頭器

第20図の1・2・4は，珪質頁岩を用いた一方に肩をもつ尖頭器である。1と2は周辺加工，4は片面加工の尖頭器ともいえる。また，1と2は櫛状剥離を有する尖頭器としても分類できる。いずれも主要剥離面において，右側に打面を置いている。

二次加工ある剥片

第20図の6・8・10～12及び第21図は，珪質頁岩を用いた二次加工ある剥片である。いずれも側縁や剥片端部に微細な剥離を加えている。第20図の6は，加工が縁辺のみであるが，削片の可能性も考えられる。

第14表 第5文化層石器組成表

母 岩	尖 頭 器	削 片	二次加工ある剥片	剥 片	砕 片	石 核	總 数	組成比 (%)
珧質頁岩①	1			13	3		17	23.6
珧質頁岩②			2	4	2		8	11.1
珧質頁岩③		1	1	2	1		5	6.9
珧質頁岩④		1	2	1			4	5.6
珧質頁岩⑤	1		1	1			3	4.2
珧質頁岩⑥				1	1		2	2.8
珧質頁岩⑦				2	1		3	4.2
珧質頁岩⑧				3	2		5	6.9
珧質頁岩⑨				1			1	1.4
珧質頁岩⑩				1			1	1.4
珧質頁岩⑪				1	1		2	2.8
珧質頁岩⑫	1						1	1.4
珧質頁岩⑬				1			1	1.4
珧質頁岩⑭			1				1	1.4
珧質頁岩⑮				1			1	1.4
珧質頁岩⑯				1			1	1.4
珧質頁岩⑰				1			1	1.4
珧質頁岩⑱				1			1	1.4
珧質頁岩⑲				1		1	2	2.8
頁 岩①				1			1	1.4
頁 岩②				3			3	4.2
頁 岩③				1	1		2	2.8
チャート①				1			1	1.4
チャート②					1		1	1.4
チャート③				1			1	1.4
チャート④					1		1	1.4
安山岩①				1			1	1.4
凝灰岩①				1			1	1.4
石英岩①					1		1	1.4
總 数	3	2	7	44	15	1	72	100
組成比 (%)	4.2	2.8	9.7	61.1	20.8	1.4	100	

## 削 片

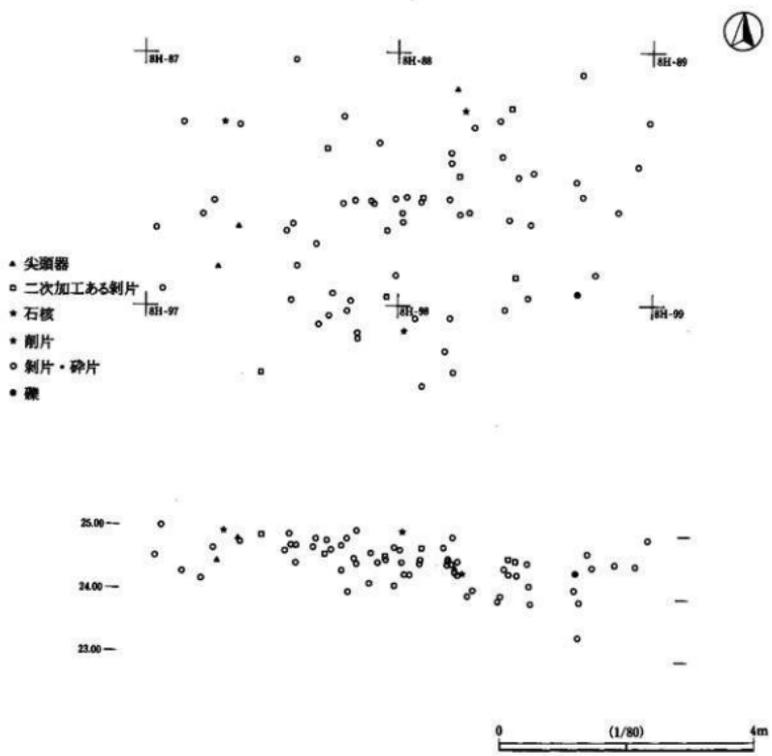
第20図の5と7は、槌状剥離を有する尖頭器の製作に関わる削片である。いずれも背面側は、ほとんどが左側からの調整剥離で占められている。

## 剥 片

剥片の形状はいずれも幅広であるが、打面は平坦なものと、調整されたもの二通りがある。

## 石 核

第22図の1は、珧質頁岩の石核である。全面に剥離痕があり、形状も石斧に似るが、不定形の剥片を周囲から剥離したものとする。



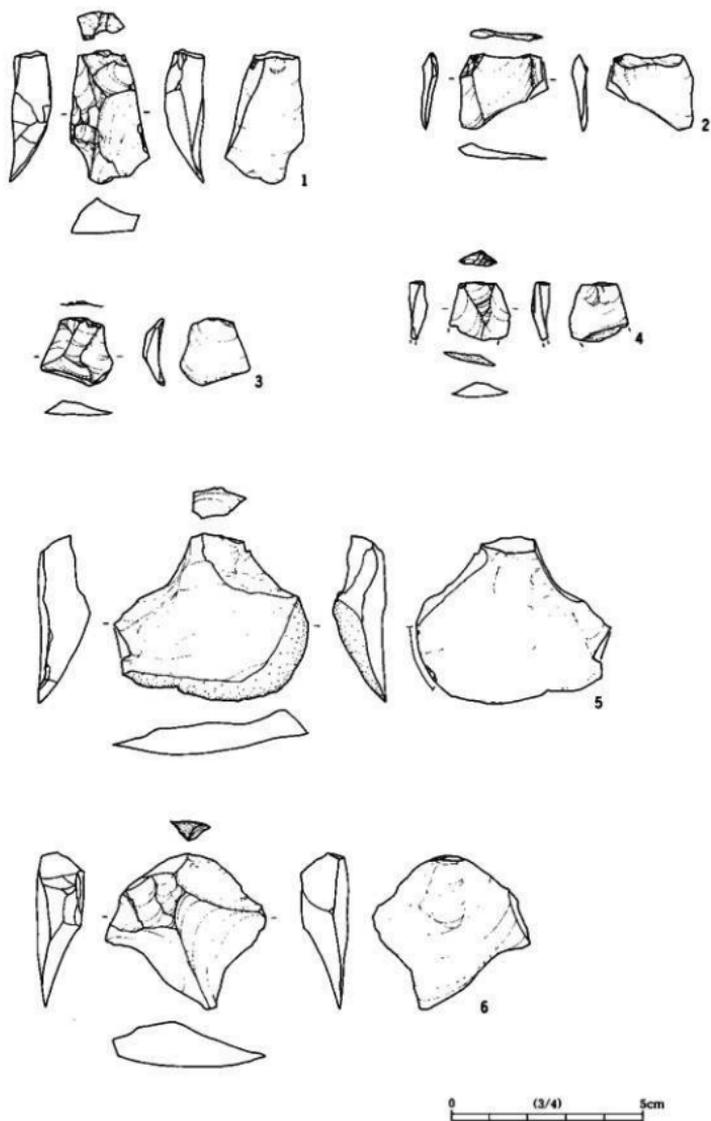
第19図 第3ブロック分布図

第15表 第5文化層石器属性表

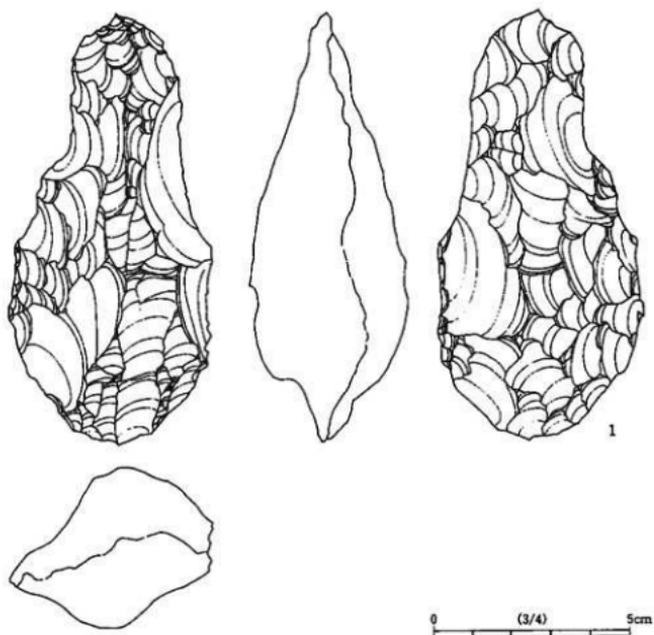
No	ブロック	登録番号	器種	石材	押印番号	長×幅×厚(mm)	重量(g)	打角(°)
1	第3ブロック	8H-87-2	剥片	瑠璃頁岩③		2.3×1.6×0.4	0.6	95
2	第3ブロック	8H-87-3	石核	瑠璃頁岩③	22-1	5.2×11.2×3.8	138.0	
3	第3ブロック	8H-87-4	剥片	瑠璃頁岩③	21-2	2.0×2.7×0.4	0.9	140
4	第3ブロック	8H-87-5	剥片	瑠璃頁岩①		1.3×1.2×0.2	0.1	
5	第3ブロック	8H-87-6	尖頭器	瑠璃頁岩①	20-4	4.0×2.2×0.9	6.5	
6	第3ブロック	8H-87-7	剥片	瑠璃頁岩①		1.1×2.2×0.2	0.4	
7	第3ブロック	8H-87-8	砕片	瑠璃頁岩⑦		1.7×(1.2)×0.2	0.1	
8	第3ブロック	8H-87-9	砕片	チャート②		1.2×0.7×0.4	0.3	
9	第3ブロック	8H-87-10	剥片	頁岩①		2.0×1.1×0.6	0.5	130
10	第3ブロック	8H-87-11	剥片	瑠璃頁岩①		(1.0)×(2.0)×0.6	0.6	
11	第3ブロック	8H-87-12	剥片	瑠璃頁岩①		(1.0)×1.3×0.2	0.2	
12	第3ブロック	8H-87-13	二次加工ある剥片	瑠璃頁岩②	20-3	(1.7)×(1.5)×0.6	1.0	
13	第3ブロック	8H-87-14	砕片	瑠璃頁岩①		0.6×0.7×0.1	0.1	
14	第3ブロック	8H-87-15	砕片	頁岩③		(0.7)×(1.0)×(0.2)	0.1	
15	第3ブロック	8H-87-16	砕片	瑠璃頁岩①		(1.1)×(1.4)×(0.2)	0.2	
16	第3ブロック	8H-87-17	剥片	瑠璃頁岩①		1.5×1.5×0.2	0.3	
17	第3ブロック	8H-87-18	剥片	瑠璃頁岩①		2.1×2.1×1.8	0.5	115
18	第3ブロック	8H-87-19	砕片	瑠璃頁岩②		1.0×0.8×0.2	0.1	
19	第3ブロック	8H-87-20	剥片	瑠璃頁岩①		1.8×2.4×0.3	0.9	105
20	第3ブロック	8H-87-21	剥片	凝灰岩①		3.4×2.1×0.9	5.1	95
21	第3ブロック	8H-87-22	尖頭器	瑠璃頁岩①	20-2	3.4×1.7×0.7	2.6	
22	第3ブロック	8H-87-23	二次加工ある剥片	瑠璃頁岩②	20-11	2.3×1.8×0.5	1.6	105
23	第3ブロック	8H-87-24	砕片	瑠璃頁岩①		0.9×0.9×0.2	0.1	
24	第3ブロック	8H-87-25	剥片	安山岩①	21-6	4.0×4.3×1.2	14.1	100
25	第3ブロック	8H-87-26	剥片	チャート③		1.3×1.6×0.7	0.9	
26	第3ブロック	8H-87-27	剥片	チャート①	21-5	4.4×5.1×1.1	20.2	115
27	第3ブロック	8H-87-28	砕片	チャート④		0.5×0.8×0.1	0.1	
28	第3ブロック	8H-87-29	砕片	石英岩①		1.4×1.5×0.6	1.2	
29	第3ブロック	8H-88-1	二次加工ある剥片	瑠璃頁岩④	21-1	3.6×2.0×1.0	6.3	105
30	第3ブロック	8H-88-2	剥片	頁岩③		(2.4)×(1.0)×(0.2)	0.5	
31	第3ブロック	8H-88-3	剥片	瑠璃頁岩④		2.2×2.2×0.7	1.8	95
32	第3ブロック	8H-88-4	二次加工ある剥片	瑠璃頁岩④	20-6	(2.4)×0.5×0.2	0.2	
33	第3ブロック	8H-88-5	二次加工ある剥片	瑠璃頁岩③	20-8	4.6×1.8×0.5	3.7	120
34	第3ブロック	8H-88-6	砕片	瑠璃頁岩②		0.8×1.1×0.3	0.2	
35	第3ブロック	8H-88-7	剥片	瑠璃頁岩①		0.9×1.1×0.2	0.1	
36	第3ブロック	8H-88-8	砕片	瑠璃頁岩②		1.1×0.7×0.1	0.1	
37	第3ブロック	8H-88-9	剥片	瑠璃頁岩②	21-4	1.5×1.6×0.5	1.0	95
38	第3ブロック	8H-88-10	砕片	瑠璃頁岩③		0.7×0.5×0.1	0.1	
39	第3ブロック	8H-88-11	剥片	瑠璃頁岩③		(1.9)×1.2×0.3	0.4	
40	第3ブロック	8H-88-12	二次加工ある剥片	瑠璃頁岩②	20-12	2.0×(2.7)×0.5	1.5	
41	第3ブロック	8H-88-13	剥片	瑠璃頁岩②		(1.2)×1.4×0.2	0.3	
42	第3ブロック	8H-88-14	砕片	瑠璃頁岩①		0.8×0.4×0.2	0.1	
43	第3ブロック	8H-88-15	砕片	瑠璃頁岩⑥		0.4×0.3×0.1	0.1	
44	第3ブロック	8H-88-16	剥片	瑠璃頁岩①		(1.1)×1.1×0.1	0.1	
45	第3ブロック	8H-88-17	尖頭器	瑠璃頁岩④	20-1	3.0×1.6×0.6	2.9	
46	第3ブロック	8H-88-18	削片	瑠璃頁岩④	20-5	(2.4)×(1.2)×0.4	1.0	
47	第3ブロック	8H-88-19	剥片	瑠璃頁岩①		1.2×1.1×0.2	0.3	
48	第3ブロック	8H-88-20	剥片	瑠璃頁岩⑥		(0.5)×(2.1)×0.5	0.4	
49	第3ブロック	8H-88-21	剥片	瑠璃頁岩③		(1.9)×0.7×0.4	0.4	
50	第3ブロック	8H-88-22	砕片	瑠璃頁岩③		0.7×0.5×0.1	0.1	
51	第3ブロック	8H-88-24	剥片	瑠璃頁岩⑦		(0.5)×(2.7)×(0.3)	0.5	
52	第3ブロック	8H-88-25	剥片	瑠璃頁岩①		1.8×1.3×0.2	0.2	
53	第3ブロック	8H-88-26	剥片	瑠璃頁岩②		(1.4)×0.9×0.1	0.1	
54	第3ブロック	8H-88-27	剥片	瑠璃頁岩⑦		1.0×0.6×0.1	0.1	
55	第3ブロック	8H-88-28	剥片	瑠璃頁岩⑦		1.7×0.9×0.3	0.2	
56	第3ブロック	8H-88-29	剥片	瑠璃頁岩①		(2.5)×1.2×0.3	0.5	
57	第3ブロック	8H-88-30	剥片	頁岩②		1.9×1.6×0.2	0.3	
58	第3ブロック	8H-88-31	剥片	瑠璃頁岩④		2.5×1.5×0.7	1.3	115
59	第3ブロック	8H-88-32	剥片	瑠璃頁岩②		1.2×1.2×0.4	0.4	90
60	第3ブロック	8H-97-2	剥片	頁岩②		1.1×1.2×0.2	0.2	
61	第3ブロック	8H-97-3	二次加工ある剥片	瑠璃頁岩②	20-10	2.1×2.2×0.8	1.9	110
62	第3ブロック	8H-97-4	剥片	頁岩②		1.8×2.0×0.3	0.8	
63	第3ブロック	8H-97-5	剥片	瑠璃頁岩⑤		(2.0)×1.4×0.2	0.7	
64	第3ブロック	8H-97-6	剥片	瑠璃頁岩⑥		1.2×1.6×0.3	0.5	
65	第3ブロック	8H-87-8	剥片	瑠璃頁岩⑥		1.2×2.7×0.6	1.3	
66	第3ブロック	8H-98-2	削片	瑠璃頁岩③	20-7	3.9×1.5×0.7	2.9	
67	第3ブロック	8H-98-3	剥片	瑠璃頁岩④		1.5×1.6×0.5	0.8	120
68	第3ブロック	8H-98-4	剥片	瑠璃頁岩②	21-3	1.8×1.9×0.4	1.1	130
69	第3ブロック	8H-98-7	剥片	瑠璃頁岩②		1.5×1.1×0.2	0.4	120
70	第3ブロック	8H-98-8	剥片	瑠璃頁岩①		1.4×0.9×0.3	0.4	120
71	第3ブロック	8H-98-9	剥片	瑠璃頁岩①		(1.0)×(1.2)×0.2	0.3	
72	第3ブロック	8H-98-10	剥片	瑠璃頁岩⑤	20-9	2.0×2.4×0.3	0.9	140



第20图 第5文化層出土石器(1)



第21图 第5文化層出土石器(2)



第22図 第5文化層出土石器(3)

第16表 第5文化層隸属性表

No	登録番号	石材	長×幅×厚(mm)	重量(g)	遺存状況	ヒビ	黒色付着物
1	8H-88-23	チャート①	1.4×0.8×0.7	1.0	1/4		

## 第2節 縄文時代

縄文時代の遺構は、J区で土坑が1基検出されたのみである。遺物もC区から縄文土器がまとめて出土した他は少量である。

### 1 遺構・遺物

003（遺構：第26図，図版7）

#### 遺 構

J区で検出された土坑である。長径は1.5m×短径は0.8mで、深さは0.2mである。旧石器の確認調査中に検出されたもので、実際はもっと深さがあった可能性がある。遺物の出土はない。

遺物（遺物：第23・24図，図版18・19）

#### 縄文土器

縄文土器はC区からまとめて出土した。第23図の1～33は前期の黒浜式土器である。1・3・5～21は、単節斜縄文をもつ胴部の破片であり、4は底部で、外面にも縄文を施している。2は縦位に単節縄文をもつ口縁部である。22～23は、無節の縄文をもつ胴部の破片である。34～37は、前期の諸磯式土器である。34は円形竹管、35は原体の押捺、36は細い縄文、37は結節沈線文をもつ。38は胎土に多量の金雲母を含む中期の阿玉台式土器である。39～45は中期の加曾利E式土器である。40～42は、単節斜縄文を持ち、39・44・45は、単節斜縄文に2本の沈線が垂下する。43は渦巻文の隆帯の貼り付けがみられる。47は後期の加曾利B式土器である。縄文の上に条線を施文している。46は加曾利E期の土製円盤である。

#### 石 器

縄文時代の石器の出土も少ない。

第24図の1は、D区から検出された石英斑岩を用いたハンマーストーンである。先端部から側縁にかけて敲打痕がみられる。2は、E区から検出された黒曜石を用いた石匙である。先端部を欠損し、基部の周囲と側面に調整加工を施しており、縦形石匙の未製品と考えられる。3は、C区から検出された黒曜石を用いた石鎌である。基部両端の返し部分を欠損している。

## 第3節 平安時代

D区南端において、今回の調査で唯一の竪穴住居跡が検出された。いわゆる「離れ図分」といわれるものになるかと思われる。

### 1 遺構・遺物

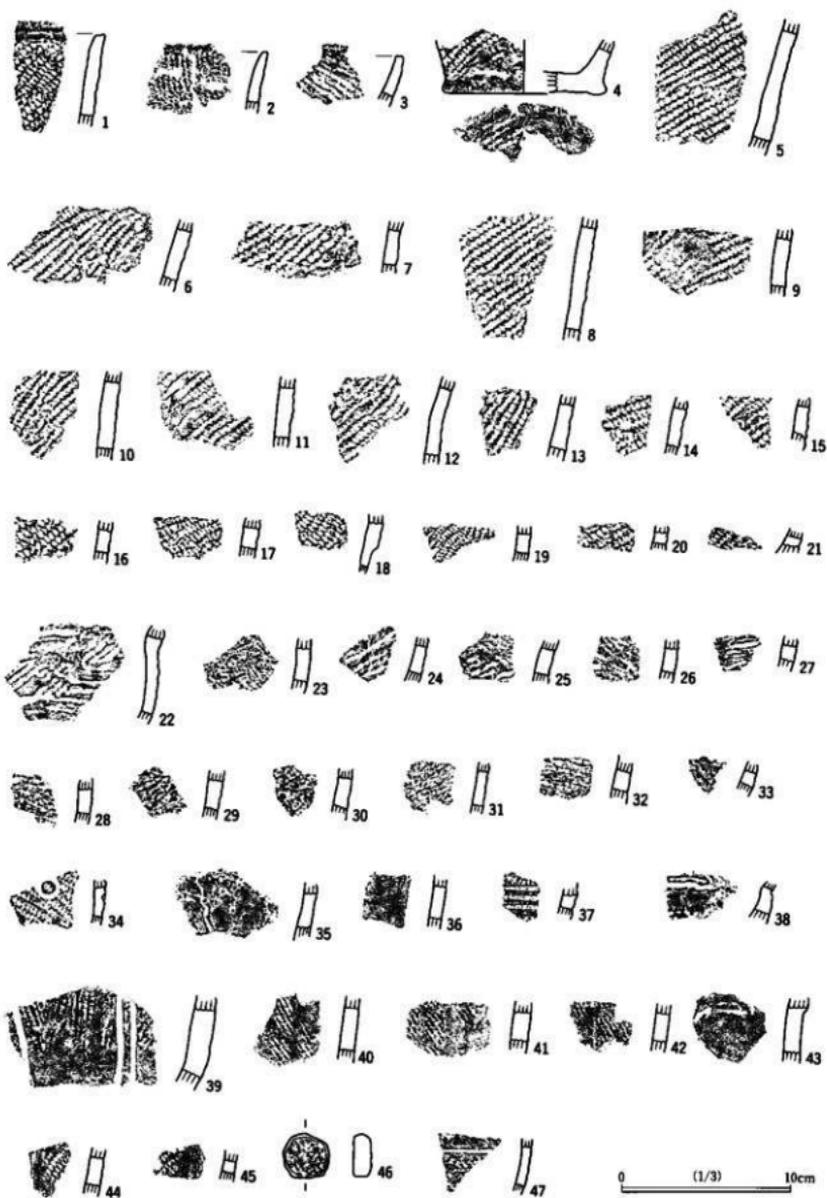
005（遺構：第25図，図版3 遺物：第35図，図版20）

#### 遺 構

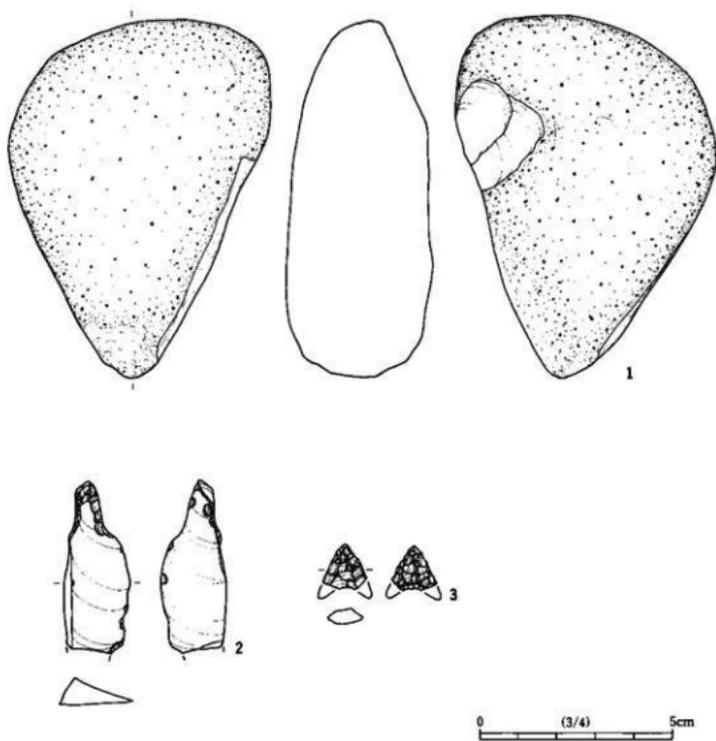
D区南端において、単独で検出された竪穴住居跡である。一辺約3.2mと小形で、確認面からの深さは約40cmである。壁溝及び柱穴はない。煙道部の張り出しは少ない。

#### 出土遺物

遺物としては、カマド前の床面から第35図の9の土製支脚が1点出土したのみである。下半部を欠損し、上部にはススが附着している。表面はヘラケズリで仕上げている。



第23圖 縄文時代遺物 (1)



第24図 縄文時代遺物（2）

#### 第4節 中近世

中近世の遺構は、道路状遺構が2条、溝状遺構が9条、土坑が1基検出された。また、遺物は、陶器、土器、板碑、宝篋印塔、銭貨等が出上した。

##### 1 遺構・遺物

001（遺構：第26図，図版3）

## 遺構

J区西側の境界付近から検出された溝状遺構である。一部が境界にかかるため、規模・形態は明確にしないが、幅約3.0m、深さ約1.1mと規模がやや大きいため、野馬堀の可能性が考えられる。遺物の出土はない。

002 (遺構：第26図)

## 遺構

J区のトレンチで検出した溝状遺構である。確認面からの掘り込みは浅いが、溝内にビットを持ち、櫛列等の存在が推定される。遺物の出土はない。

004 (遺構：第27～30図、図版4・5 遺物：第35図、図版20)

## 遺構

F区とE区で検出された道路状遺構である。覆土には数枚の硬化面が確認され、部分的にビット群も検出された。また、部分的ではあるが底部西側の隅に側溝と思われる溝を検出した。道路状遺構の幅は確認面で3.6m～4.4m、底面は2.0m～2.4m、深さは0.6m～0.7mである。

## 出土遺物

覆土から若干の陶器が出土した。第35図の3は、渥美産の壺か甕の胴部片。胎土中に砂礫は含まないが、全体にざらざらしてかなり砂っぽい。外面は一面に自然軸が付着。内面は粘土紐の接合痕が残る。4は、常滑産の壺か甕の胴部片。表面は褐色に発色。内面にはごま振り状に緑色の自然軸が付着。断面には藕状になって粘土をこねた痕跡がみられる。砂礫は含まない。6は、渥美産の壺か甕の胴部片。全体にざらざらして砂っぽい。砂礫を含む。8は、常滑産の壺か甕の破片。

006 (遺構：第31図、図版3)

## 遺構

C区で検出された溝状遺構である。遺物の出土はない。確認面で幅は1.0m～1.6m、深さは0.4m～0.8mで北側ほど深い。

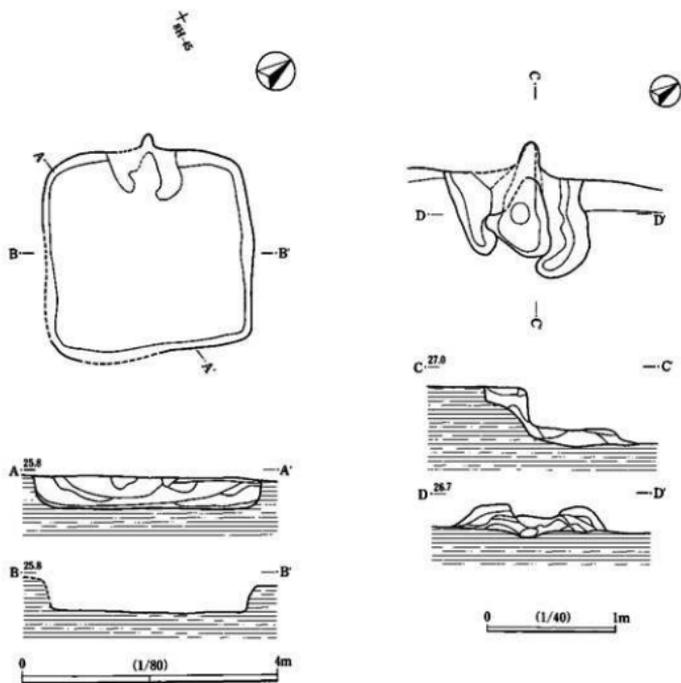
007 (遺構：第32～34図、図版6 遺物：第36図、図版21)

## 遺構

A区で検出された溝状遺構である。確認面で幅は1.4m～2.0m、深さは0.1m～0.6mで南側ほど深い。

## 出土遺物

覆土から石塔と銭貨が出土している。第35図の10は、宝篋印塔の隅飾突起の破片である。安山岩製で少し反る。36図の1は、開元通寶である。鑄造地は唐、初鑄年は621年、外縁外径24.40mm×24.39mm、外縁内径19.43mm×19.43mm、孔幅6.69mm×6.57mm、外縁厚0.95mm×1.13mm、重量2.3g、背面が非常に平滑である。3は、元祐通寶である。鑄造地は北宋、初鑄年は1086年、外縁外径23.72mm×24.04mm、外縁内径19.81mm×19.41mm、孔幅6.64mm×6.94mm、外縁厚1.24mm×1.36mm、重量2.3g。4は、紹聖元寶である。鑄造地は北宋、初鑄年は1094年、外縁外径23.14mm×23.20mm、外縁内径17.59mm×18.47mm、孔幅6.25mm×6.71mm、外縁厚1.38mm×1.55mm、重量2.0g。



第25図 005

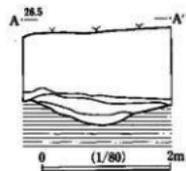
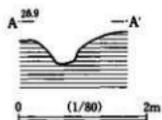
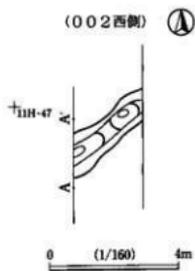
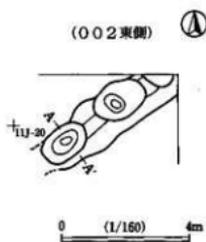
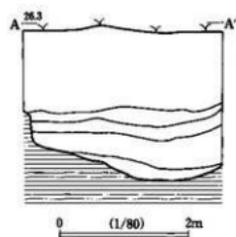
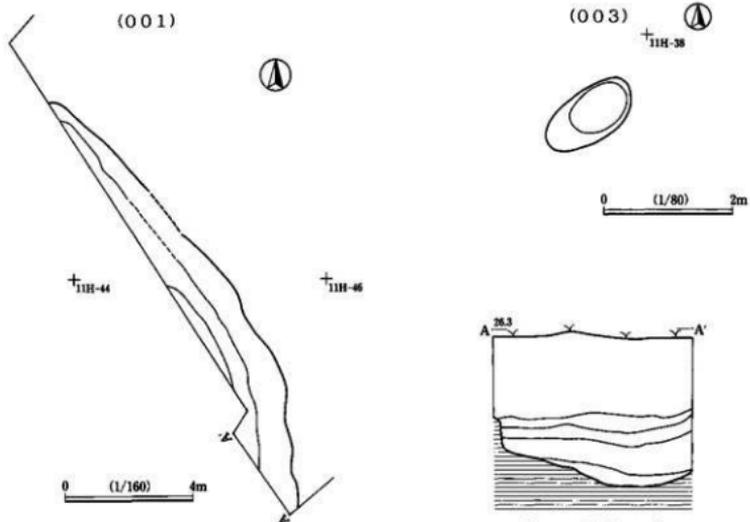
008 (遺構：第33図，図版6 遺物：第35・36図，図版20・21)

#### 遺構

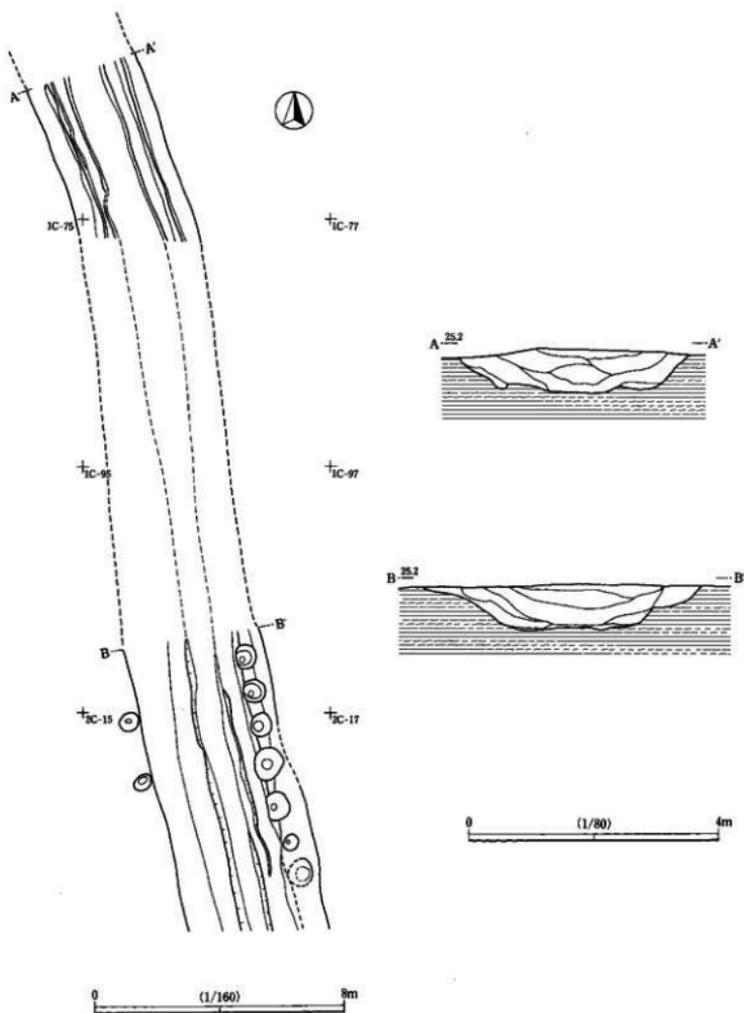
A区で検出された道路状遺構である。確認面で幅は1.6m～3.6m，深さは0.4m～0.6mである。覆土中に硬化面が数枚確認できる。

#### 出土遺物

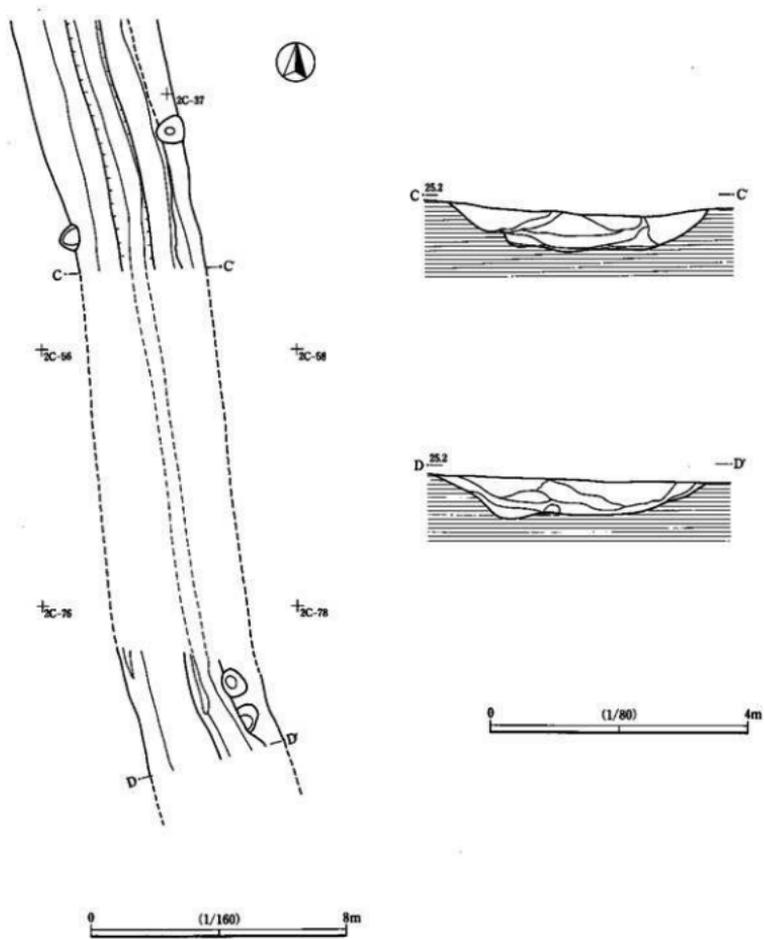
覆土から若干の陶器，石塔，銭貨等が出土している。第35図の1と2は，在地産の焙烙の体部破片。内外面ともに横ナデ痕がはっきり残る。外面の口縁から1.3mmほど下部には，粘土紐の接合痕が残る。おそらく，残存している体部直下から平底の底部になると考えられる。胎土には大きな砂粒を含まない。表面は木炭が染みこんでおり，瓦質である。5は，常滑産の壺か甕の肩部破片。外面は褐色でごま振り状に緑色の自然釉が付着。内面は黒色に近い。胎土には直径1mm～2mm大の砂礫を含む。11は，緑泥片岩製の板碑の破片と思われる。第36図の2は，元豊通寶である。鑄造地は北宋，初鑄年は1078年，外縁外径23.57mm×23.24mm，外縁内径17.93mm×18.04mm，孔幅6.16mm×6.52mm，外縁厚1.05mm×1.21mm，重量2.0g。



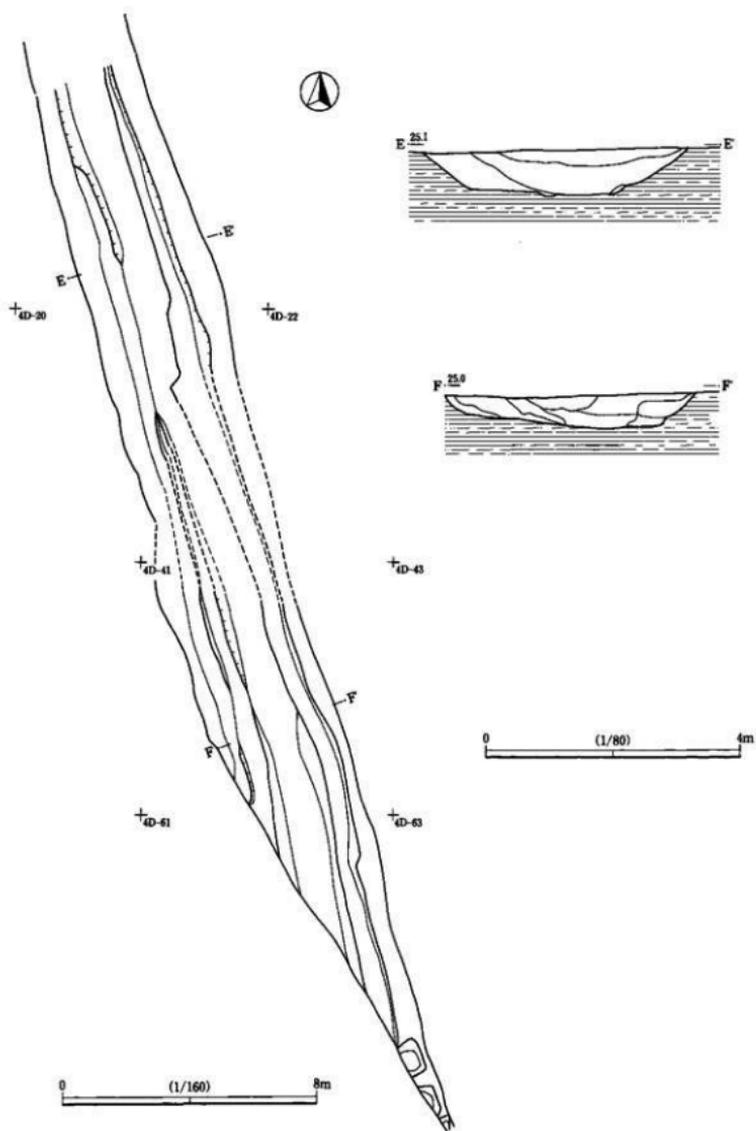
第26圖 001・002・003



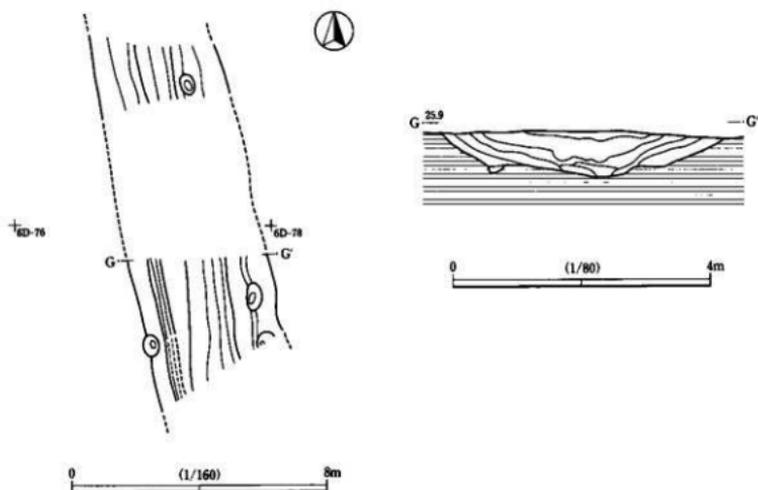
第27図 004 (1)



第28圖 004 (2)



第29図 004 (3)



第30図 004 (4)

009 (遺構：第33図，図版6)

**遺構**

A区で検出された長大な土坑である。長さ9.6m，確認面で幅1.8m～2.8m，深さ2.1mの規模をもつ。

010 (遺構：第31図)

**遺構**

C区で検出された溝状遺構である。確認面で幅は0.5mである。遺物の出土はない

011 (遺構：第31図)

**遺構**

C区で検出された溝状遺構である。確認面で幅は0.3m～1.2mである。遺物の出土はない。

012 (遺構：第31図)

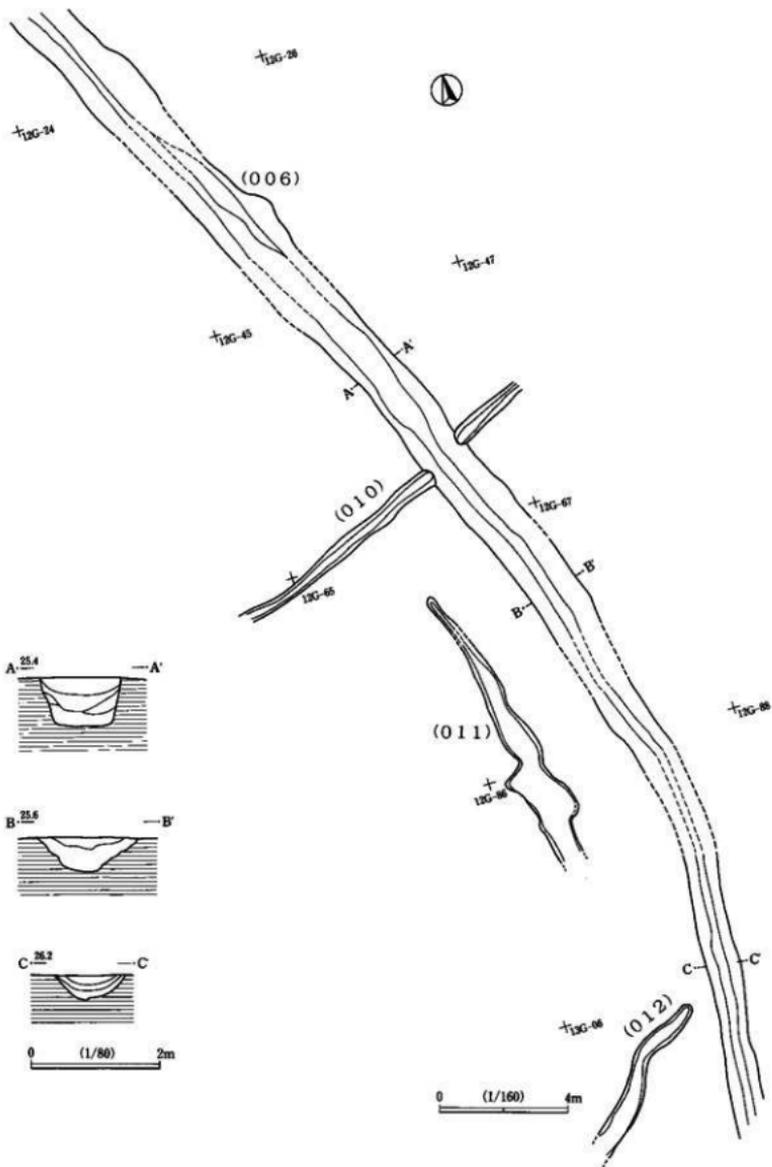
**遺構**

C区で検出された溝状遺構である。確認面で幅は0.4m～0.6mである。遺物の出土はない。

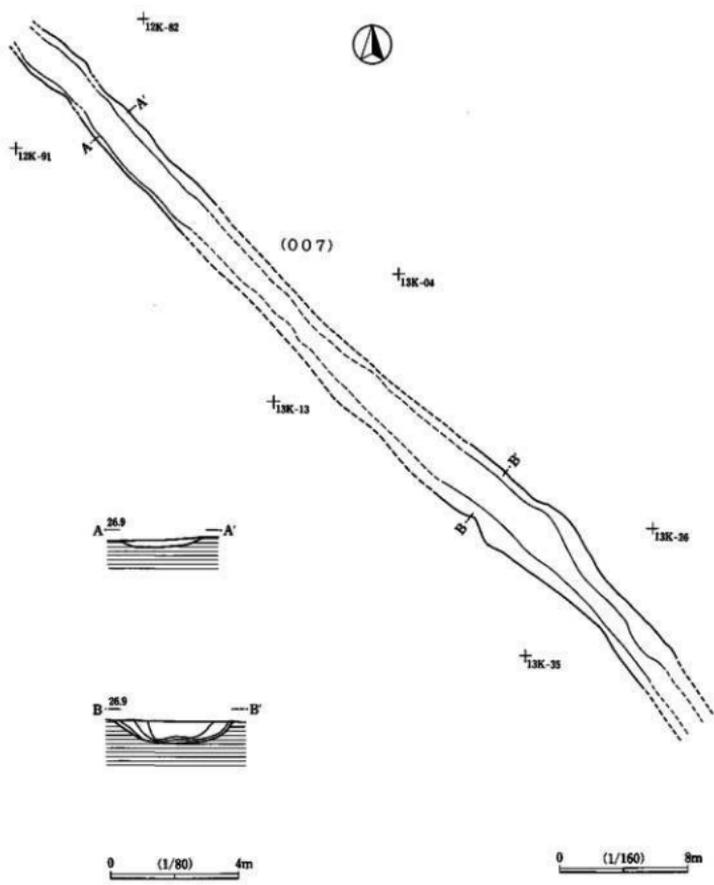
013 (遺構：第34図)

**遺構**

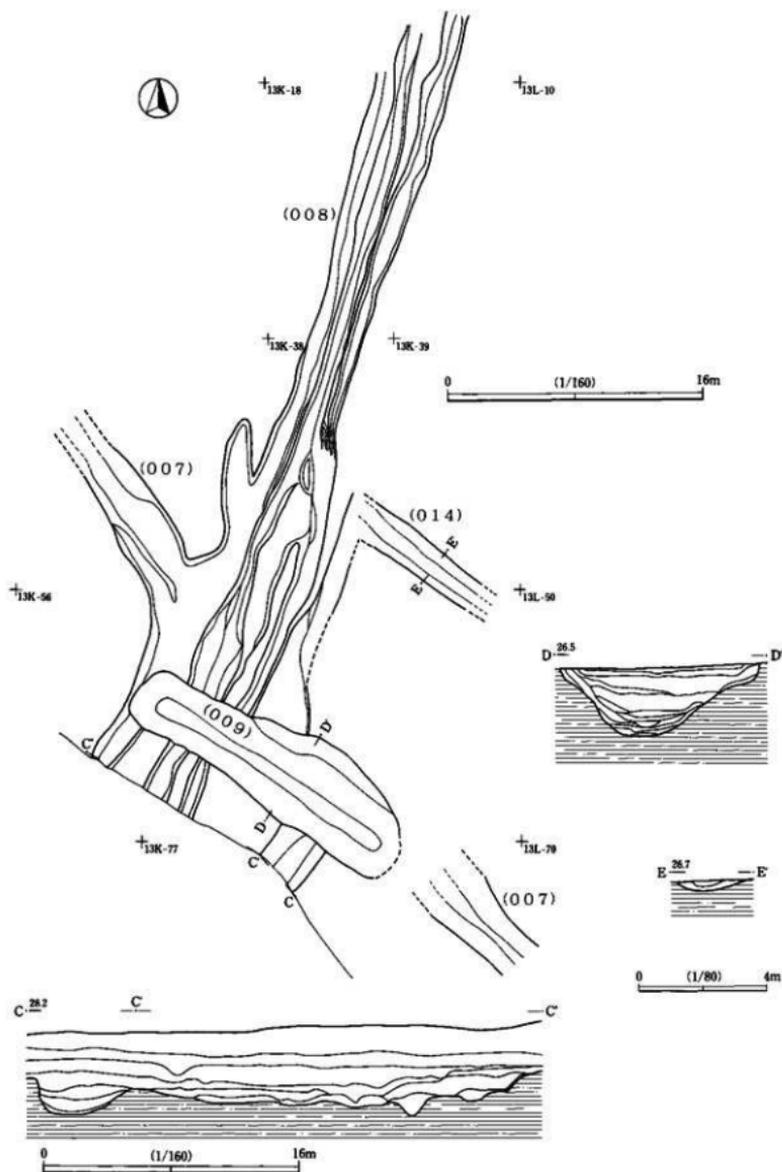
A区で検出された溝状遺構。007溝状遺構と並行して走る。確認面で幅は0.5m～1.0mで浅い。遺物の出土はない。



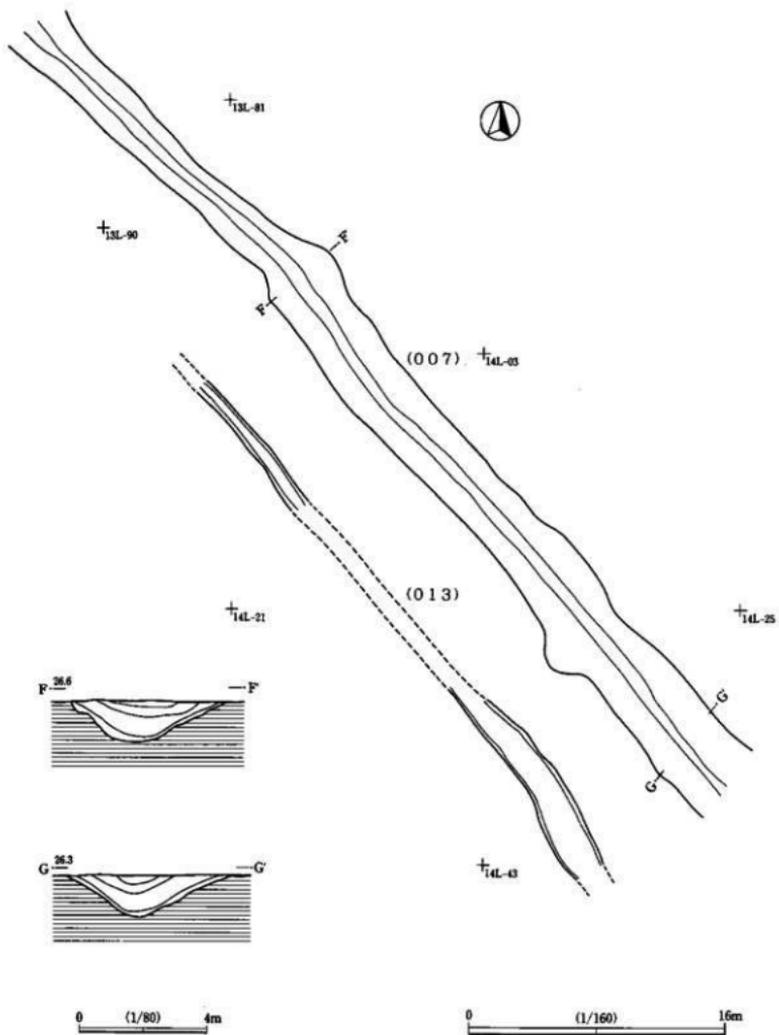
第31圖 006·010·011·012



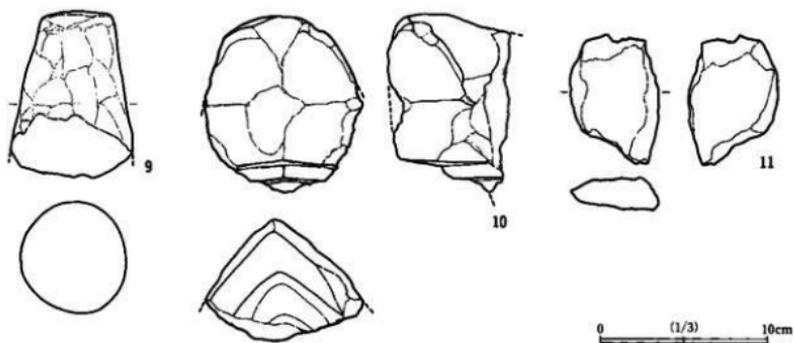
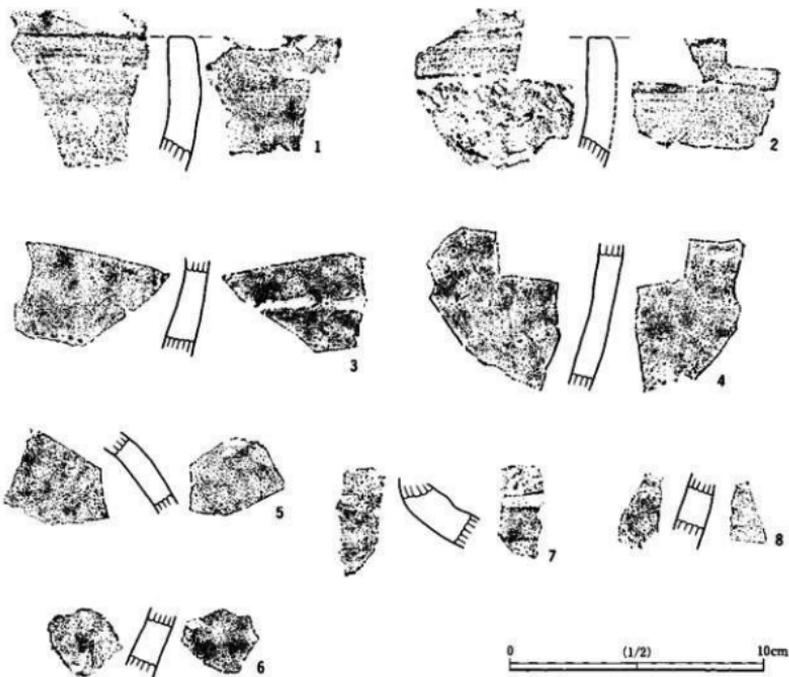
第32圖 007 (1)



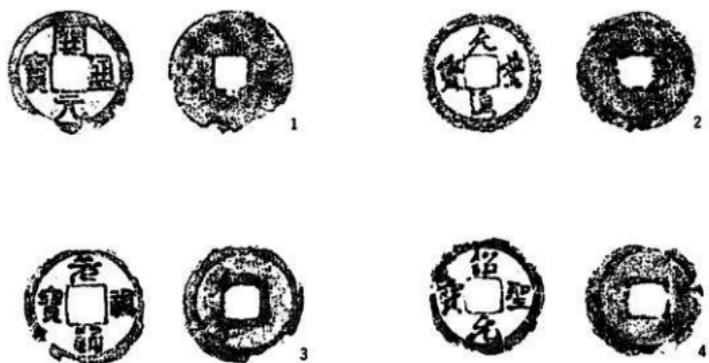
第33图 007(2)·008·009·014



第34圖 007(3)・013



第35圖 平安時代・中近世遺物（1）



第36図 中近世遺物（2）

014（遺構：第23図）

遺 構

A区で検出された溝状遺構である。確認面で幅は1.0m～1.2m、深さは0.2mである。遺物の出土はない。その他の遺構出土遺物

第35図の7は、C区から検出された陶器である。常滑産の壺か甕の肩部破片。内外面とも表面は褐色で、緑色の自然釉が付着。胎土中には直径5mmを超える砂礫を含む。

## 第3章 まとめ

### 第1節 旧石器時代

光ヶ丘遺跡の第2次調査で検出された旧石器時代石器群は、第37図のように5枚の文化層にわたり、総計174点を数える。ナイフ形石器は第4文化層で1点検出されただけであるが、第1文化層～第4文化層はナイフ形石器群に所属する石器群と捉えられ、第5文化層は尖頭器石器群と分類できる。第1次調査において検出された石器のうち下部出土の石器は、今回の第1文化層、上部出土の石器は第3文化層に相当する可能性がある。ここでは、ある程度まとまった石器群といえる第5文化層の石器群について、近隣の石器群と比較をしてみることにする。

第5文化層の石器群は、珪質頁岩を主体に用いて、一方に肩をもつあるいは槌状剝離を有する尖頭器石器群と捉えられる。このような石器群を近隣にあたれば、流山市上貝塚貝塚検出の第1ブロックの尖頭器石器群<sup>9)</sup>を上げることができる。上貝塚貝塚石器群の検出層位は、Ⅲ層中位付近にあり、石材は頁岩とチャートを主体として、礫群を伴出する。槌状剝離を有する尖頭器は、10点中9点上る。このような上貝塚貝塚の石器群と光ヶ丘第5文化層の石器群を比べると、層位的には上貝塚が少し古いと思われる。また、槌状剝離を有する尖頭器の形状は、最大幅が上貝塚は中位にあるが、光ヶ丘はより先端部方向にあり、先端部の角度も上貝塚の方が鋭角である。

これらの違いは、槌状剝離を有する尖頭器石器群の時間的変遷、空間的分布の中で検討されねばならないが、結論だけを述べれば、本遺跡の石器群の方が後出で、下総的な様相を呈していると考えられる。また、後期旧石器時代の石器群の変遷の中でみれば、いずれの石器群も、ナイフ形石器を伴わないで尖頭器石器群を主体とする石器群が増加する段階と捉えられる。

### 第2節 中近世

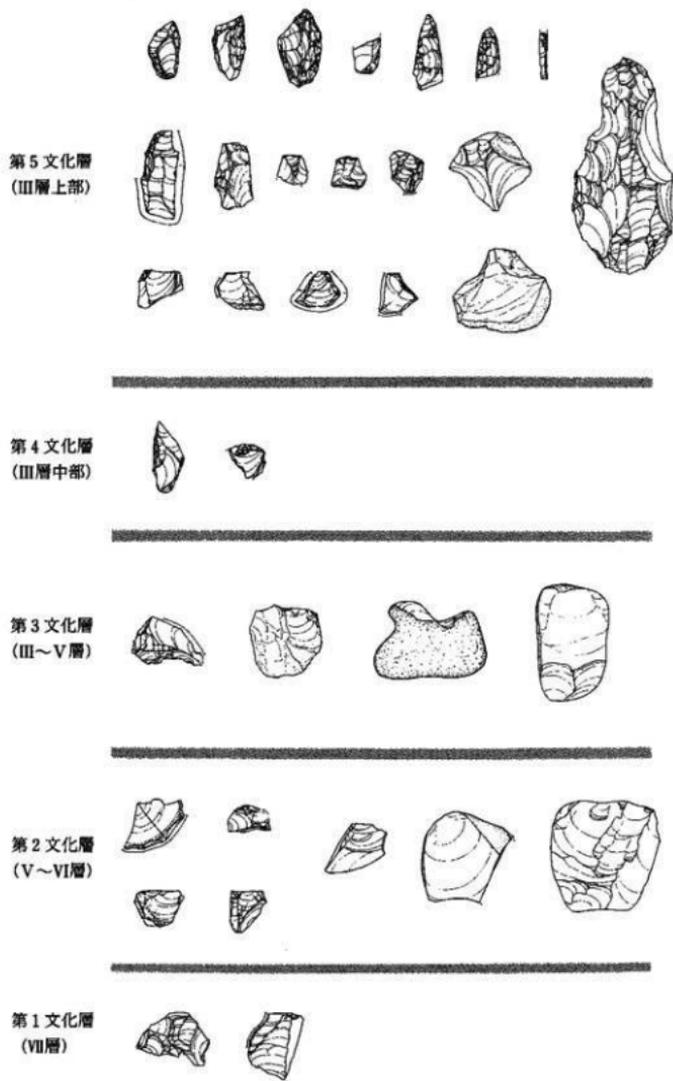
光ヶ丘遺跡の第2次調査では、中近世に所属すると思われる遺構は、道路状遺構が2条、溝状遺構が9条、土坑が1基検出された。また、遺物としても、常滑あるいは渥美産の壺または甕の破片をはじめ宝篋印塔、板碑、銭貨等が出土した。このことは、この地域が交通路あるいは墓地的なものとして利用されていたことを表しており、これを裏付けるような資料として、現在も光ヶ丘団地内に2基の塚が保存されているが(第38図)<sup>10)</sup>、以前はもっと多くの塚があったと伝えられている(第5図)。なお、県道白井・流山線の工事では光ヶ丘団地付近で多量の板碑が出土したといわれている。また、柏市による光ヶ丘団地内の野馬堀の調査では、堀というよりも道路状遺構が検出されており<sup>11)</sup>、この遺構と今回調査した008道路状遺構は同じ遺構の可能性が強いと思われる。

奈良時代には、下総の国府と常陸の国府を結ぶ東海道がこの近くを通っており、中世以降も形が変わったとしても道路網が存在したと考えられる。今後はこのような道路状遺構の調査例が増加することが予想され、人の動きや物資の流れがこれまで以上に具体的に捉えられるものと思われる。

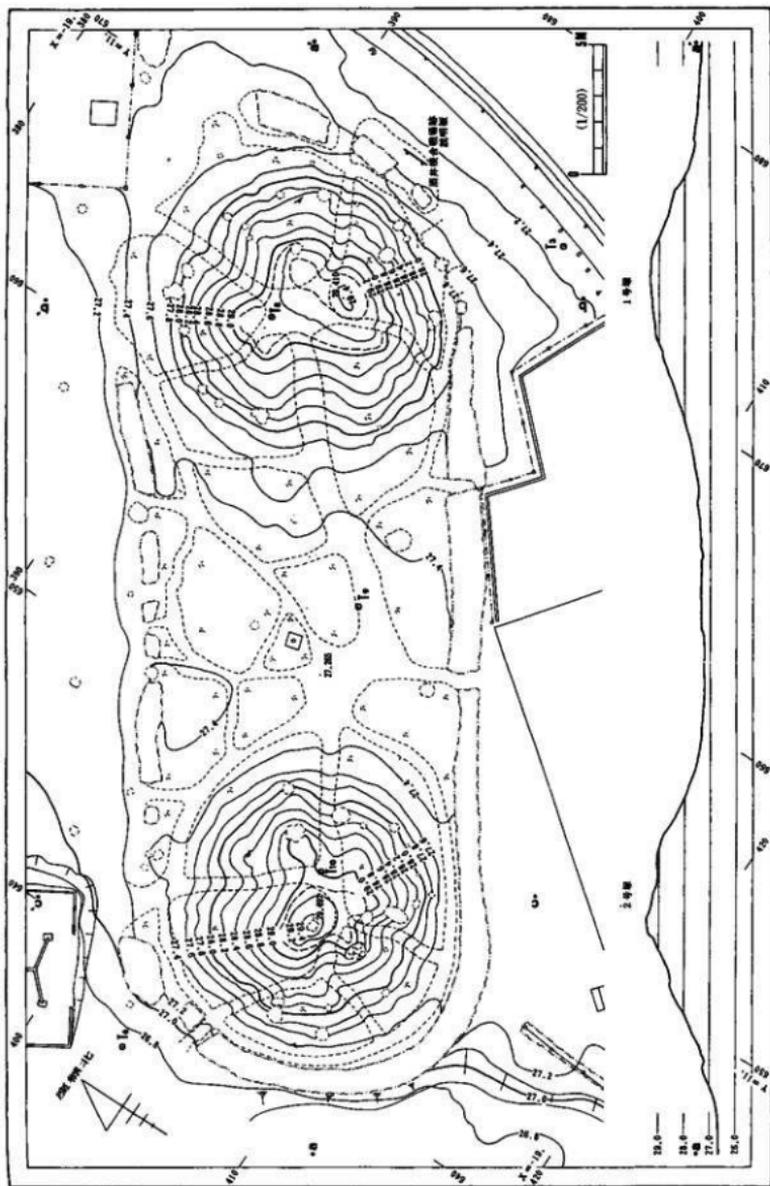
注1 落合章雄ほか1996『主要地方道松戸野田線埋蔵文化財調査報告書』財団法人千葉県文化財センター調査報告第

276集

- 2 中原幹彦ほか1992『光ヶ丘塚群1号塚・2号塚測量調査報告書』柏市教育委員会
- 3 井上文男1994『光ヶ丘768-5地先野馬塚』柏市教育委員会



第37圖 旧石器時代石器群



第38図 光ヶ丘1号塚・2号塚

写 真 图 版





F区調査前



J区調査前



F区建物解体状況



005 全景



006 全景



001 全景



004北端部



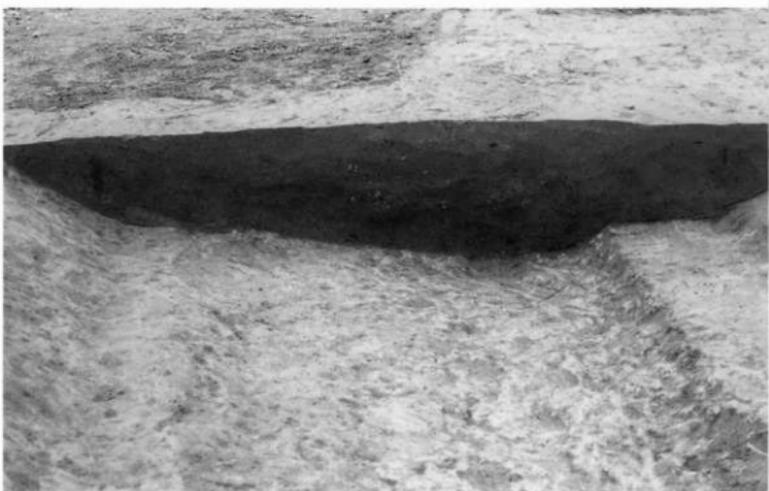
004北側(1)



004北側(2)



004南側



004南端部 (1)



004南端部 (2)



007 南侧



008 西侧



009 全景



J区土層断面



003全景



第1ブロック  
遺物出土状況



第1ブロックと土層断面



H区土層断面



第2ブロック  
遺物出土状況



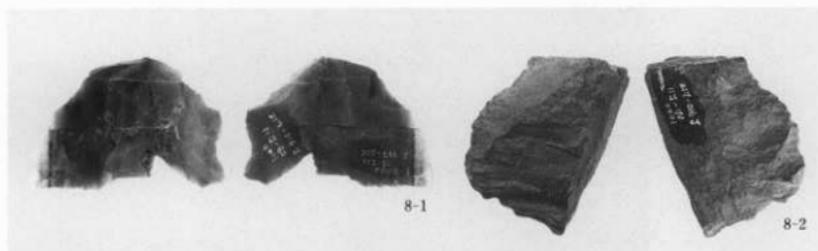
第3ブロック  
遺物出土状況



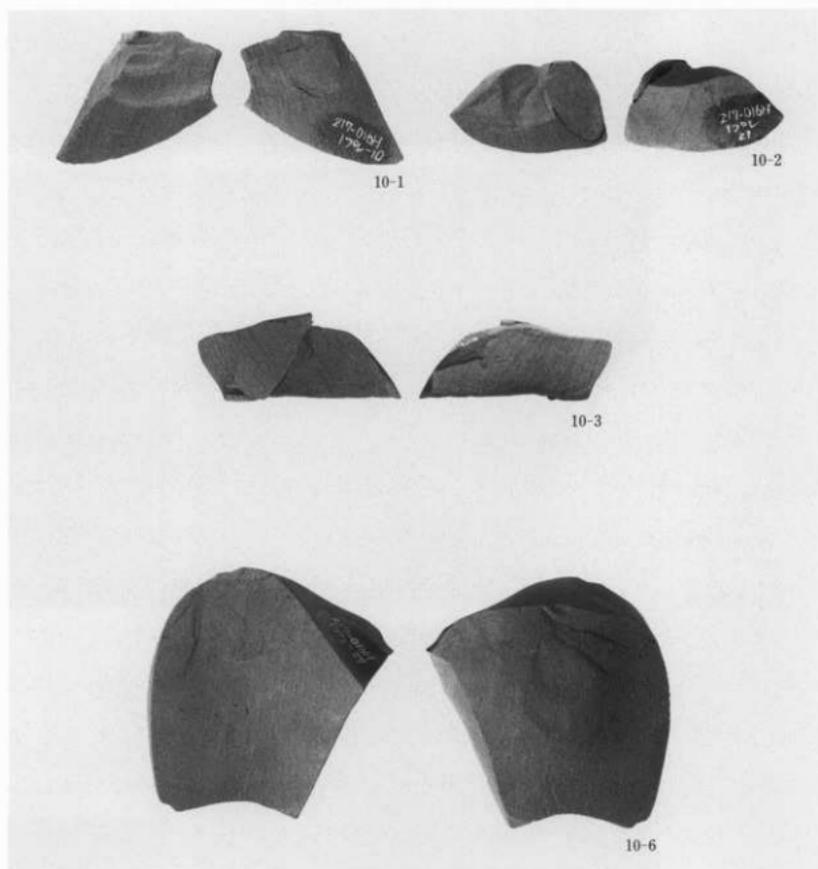
D区土層断面



第4ブロック  
遺物出土状況



第1文化層出土石器

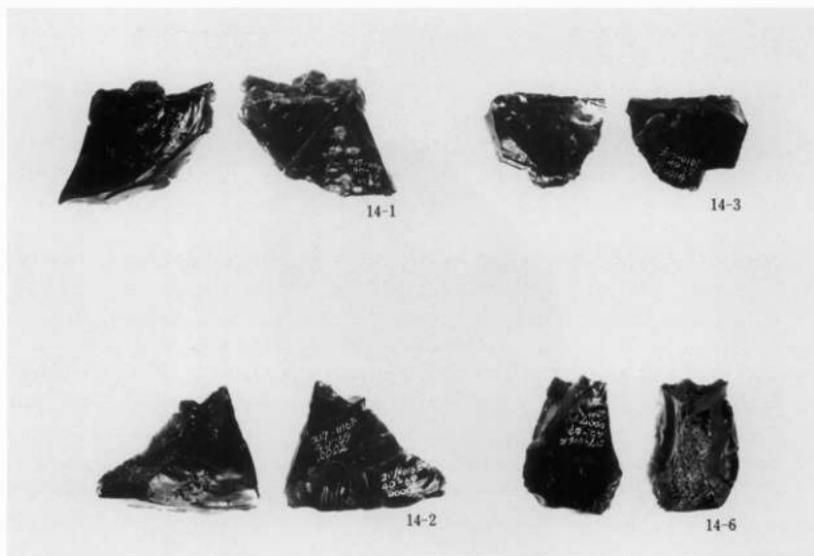


第2文化層出土石器(1)



11-1

第2文化層出土石器(2)



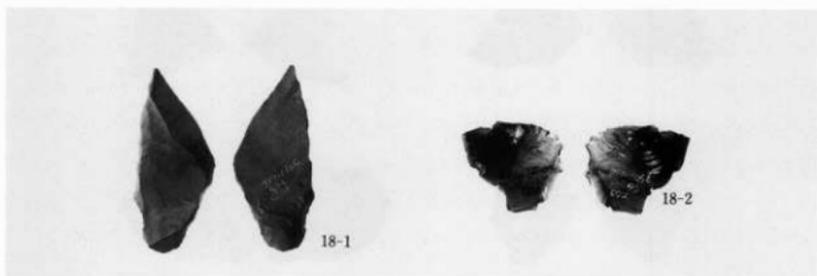
第2文化層出土石器(3)



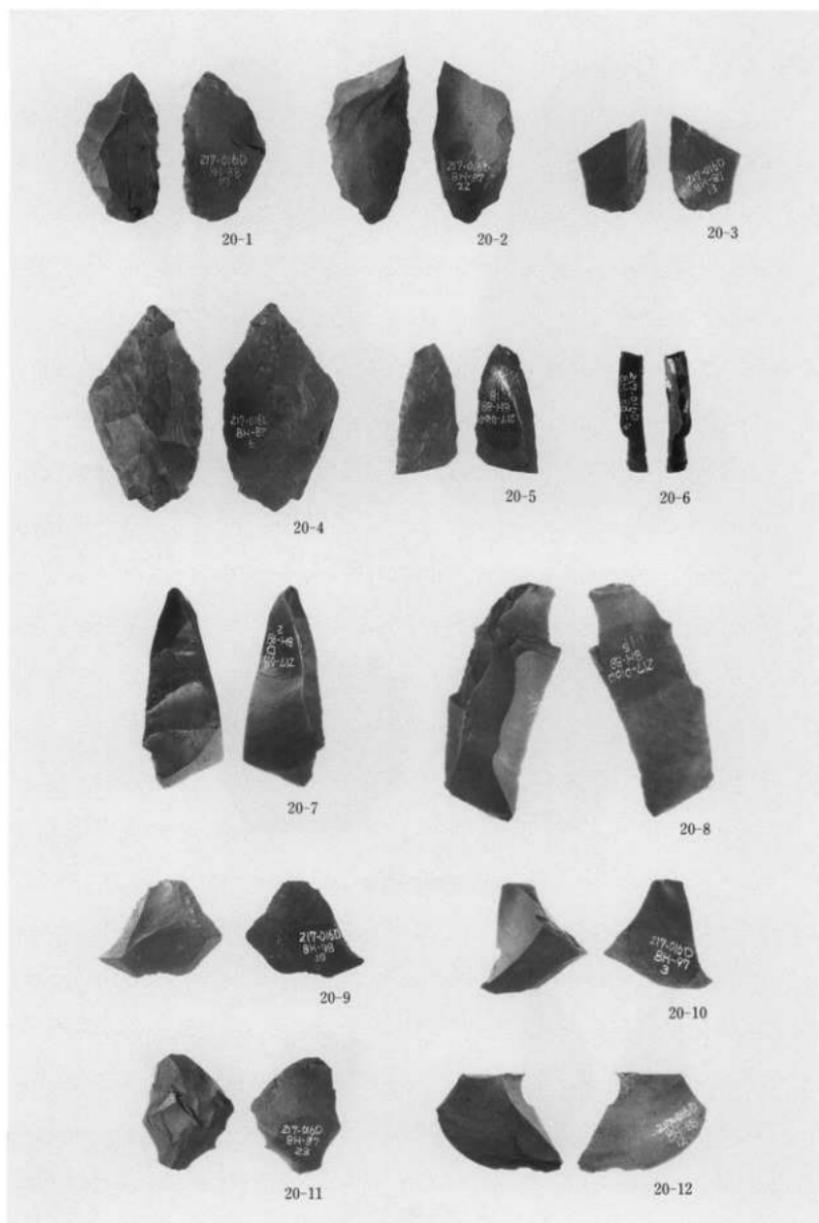
第3文化層出土石器(1)



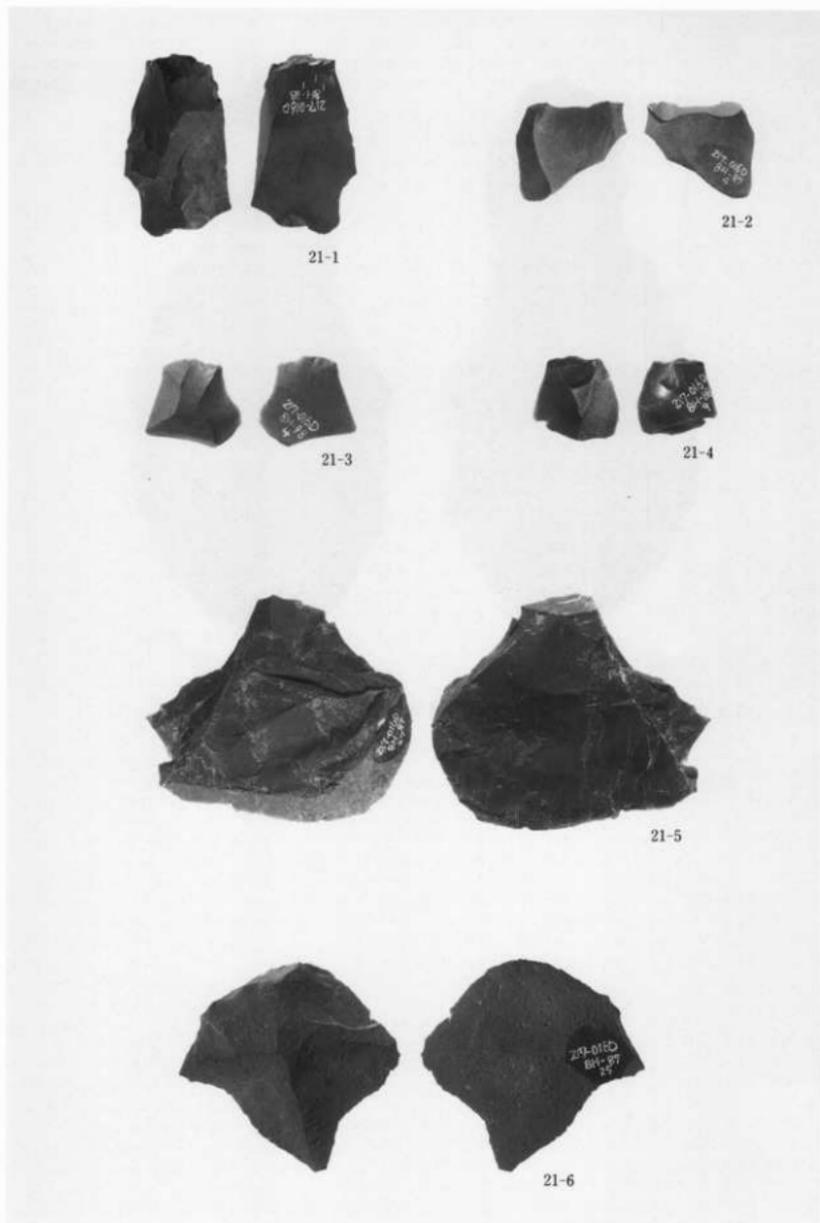
第3文化層出土石器(2)



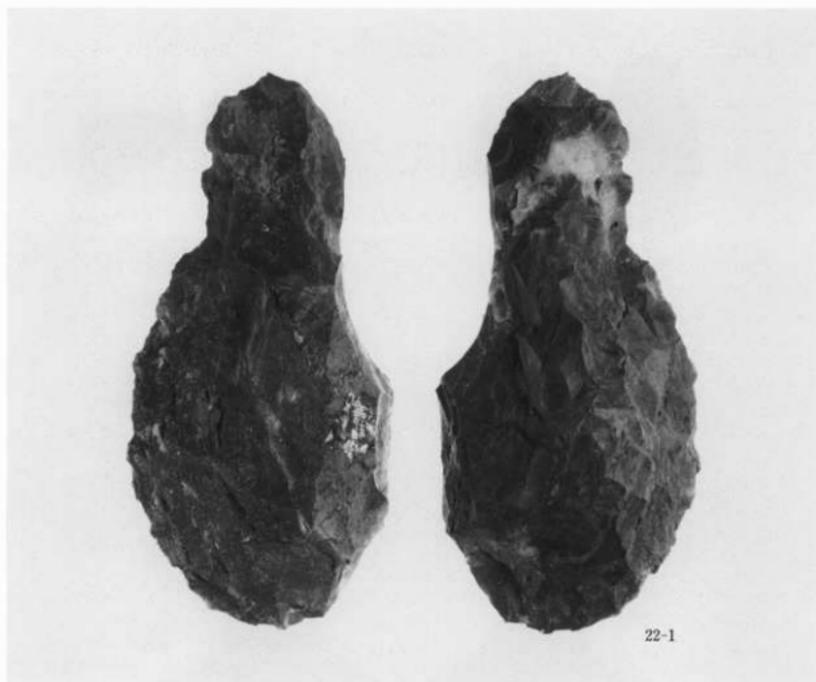
第4文化層出土石器



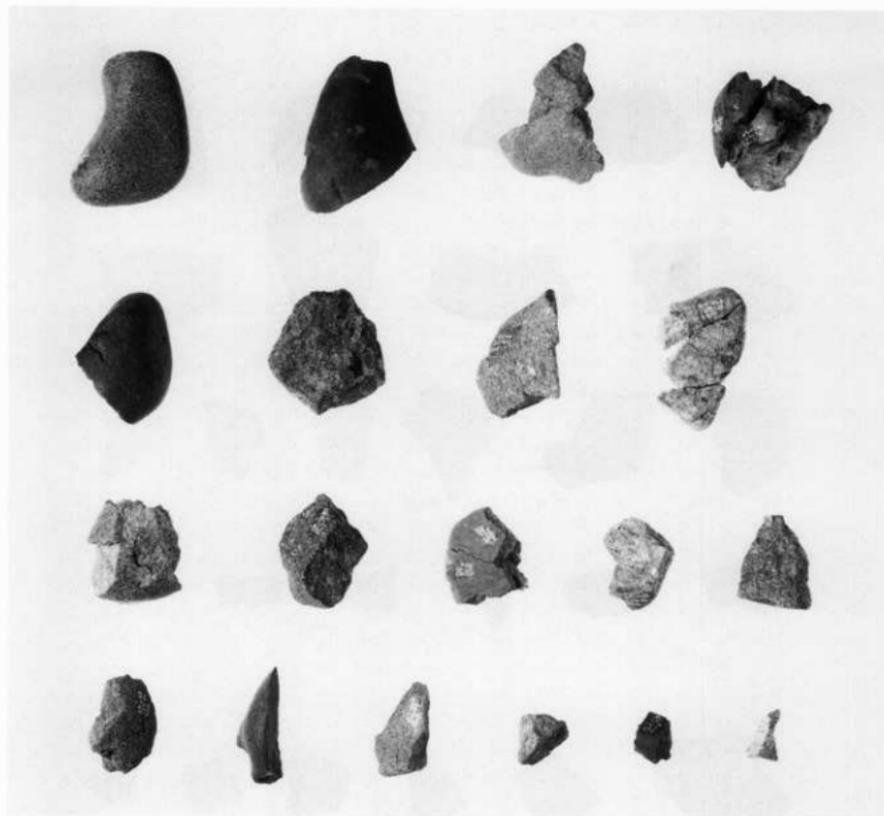
第5文化層出土石器(1)



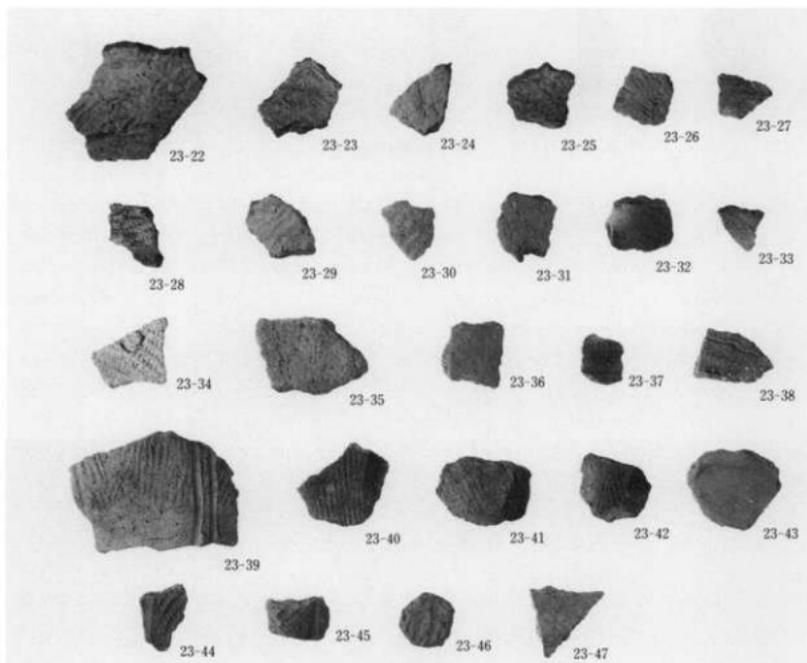
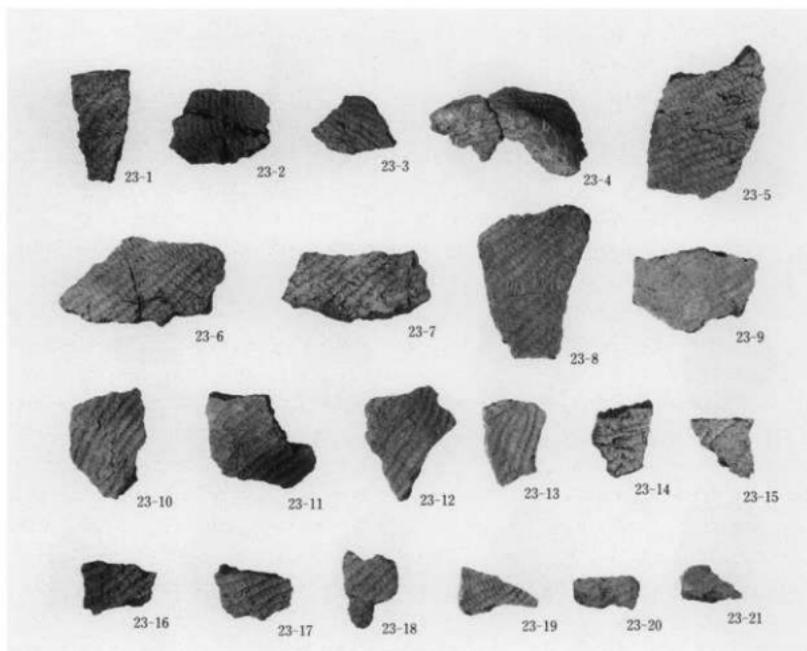
第5文化層出土石器(2)



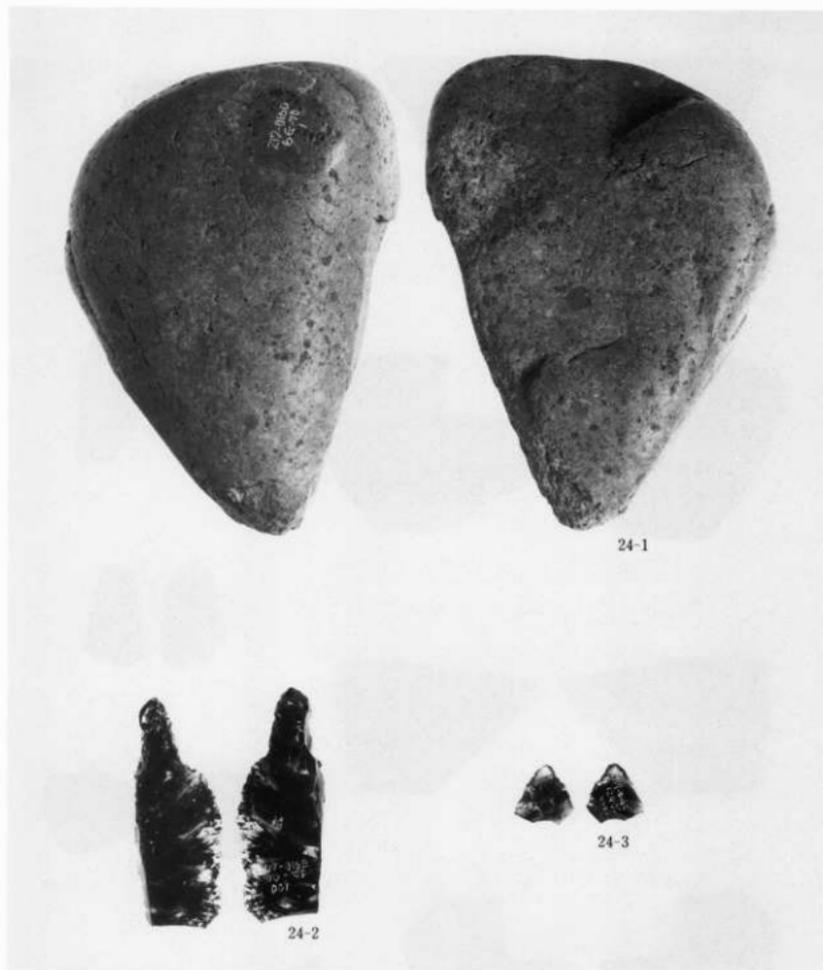
第5文化層出土石器(3)



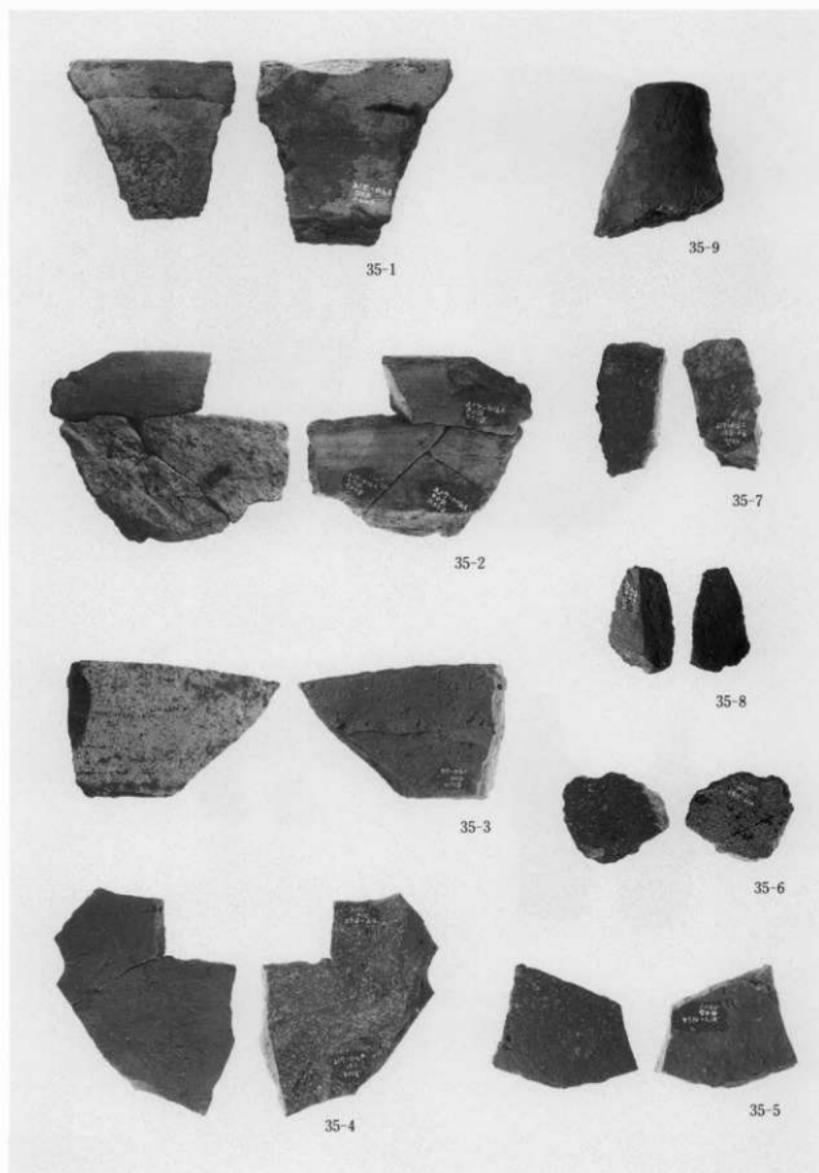
第1 群群構成礫



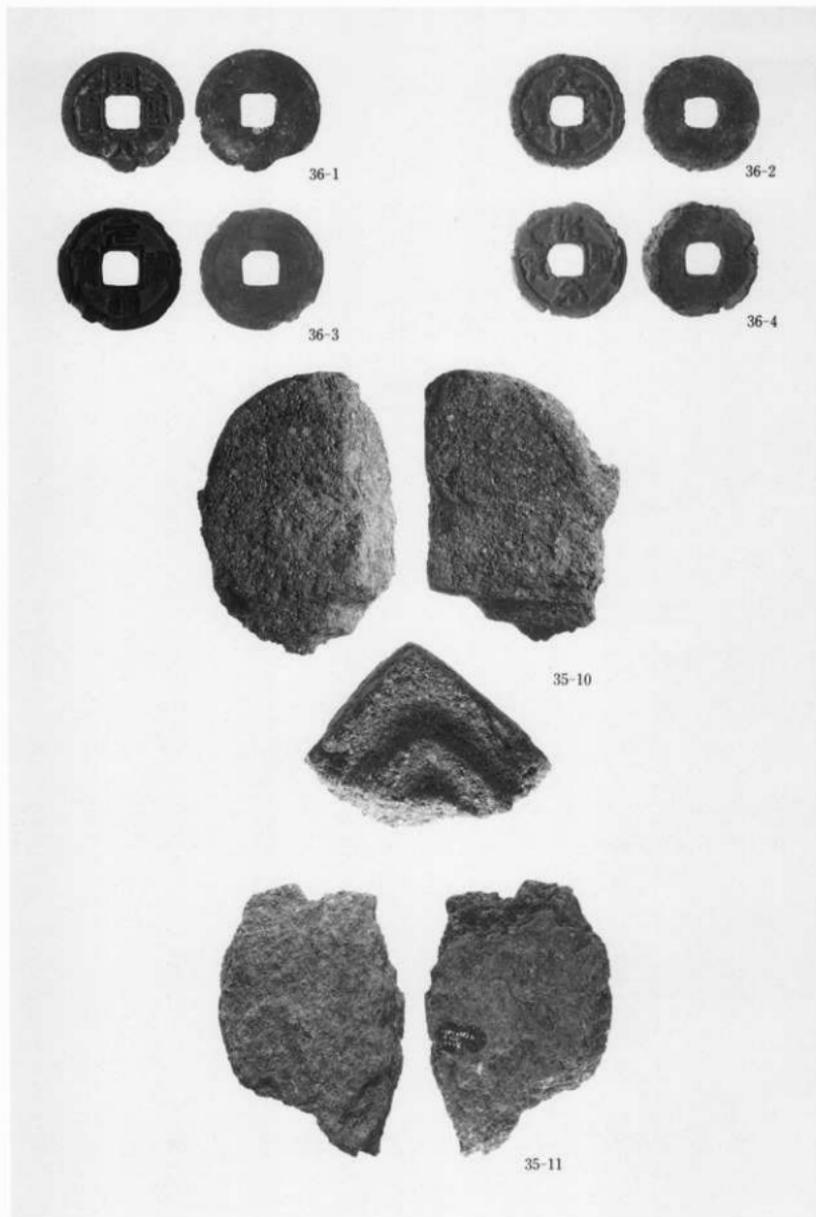
縄文時代遺物 (1)



縄文時代遺物 (2)



平安時代・中近世遺物（1）



中近世遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	かしわしひかりがおかいせき								
書名	柏市光ヶ丘遺跡								
副書名	光ヶ丘団地埋蔵文化財調査報告書								
巻次	Ⅱ								
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告								
シリーズ番号	第418集								
編著者名	川島利道								
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター								
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL043-422-8811								
発行年月日	西暦2001年9月28日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
光ヶ丘	千葉県柏市光ヶ丘 1768-1ほか	12217	016	35度 49分 24秒	139度 54分 55秒	19990701～ 20000327	16,814	団地建て 替えに伴 う事前調 査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
光ヶ丘	集落	旧石器時代	石器集中地点	4地点	尖頭器、ナイフ形石器、スクレイパー、剥片、石核、礫		旧石器時代の文化層が5枚検出された。		
		縄文時代	土坑	1基	縄文土器、石鏃、石匙				
		平安時代	竪穴住居跡	1軒	支脚				
		中近世	道路状遺構 溝状遺構 土坑	3条 8条 1基	陶器、焙烙、宝篋印塔、銭貨、板碑				

千葉県文化財センター調査報告第418集

## 柏市光ヶ丘遺跡

—光ヶ丘団地埋蔵文化財調査報告書Ⅱ—

---

平成13年9月28日発行

編 集	財団法人 千葉県文化財センター
発 行	都市基盤整備公団千葉地域支社 千葉市美浜区中瀬 1-3 幕張テクノガーデンD棟
	財団法人 千葉県文化財センター 四街道市鹿渡 809-2
印 刷	株式会社 正文社 千葉市中央区都町 1-10-6

---